週刊 YEARBOOK

1963
昭和38年

日録20世紀

3|18
平成9年3月18日発行
(毎週1回発行)第1巻第5号
¥550
講談社

ケネディ大統領暗殺!

「水俣病とチッソ」に決定的証拠
ホンダ・スズキ車がオートバイ世界一!
えん罪晴れた"昭和の巌窟王"吉田石松

初の日米宇宙中継で流れた衝撃の映像
ダラスからの悲報——ケネディ暗殺！

この年、米英ソ三国は部分的核実験停止条約に調印、核軍縮の一歩が踏み出された。国内では、名神高速道路の開通など、経済大国への基礎整備が進んでいく。そうした中、一一月二二日午後零時半、アメリカ・ダラスで三発の銃弾が大統領に撃ちこまれた。

▶ホーム・ビデオで撮られたケネディ大統領狙撃の瞬間。上から順に時間の経過を示す。(上)は後ろから撃たれた瞬間、(中)は右前方から狙撃された瞬間、(下)は背後に飛びちった頭部の一部を拾い集めようとするジャクリーヌ夫人。 Abraham Zapruder PPS

◎表紙 アメリカの第35代大統領に史上最年少で当選したケネディだったが、銃弾に倒れた。 PPS

▲日米間を衛星でつなぐ初の中継実験で、NHKテレビに映し出されたのは、予定されていたケネディ大統領のメッセージではなく、大統領暗殺の悲報だった。 読売新聞社

初めての衛星放送が伝えたケネディ暗殺

一一月二三日、茨城県にある国際電電会社宇宙通信実験所では、第一回通信実験（ケネディ大統領のメッセージを放映予定）に備え、徹夜で作業が行われていた。翌年の東京オリンピックを控え、NASA（米国航空宇宙局）からの初めての衛星放送がまもなく行われる。

マスコミ各社もテントを設営して、徹夜でこの放送の取材をしている。そんな中、報道陣の間にケネディ暗殺のニュースが飛びこむ。午前五時二七分四二秒からの第一回目の放映では、急拠、予定を変更し、テストパターンとアメリカ西部のモハーベ砂漠の風景が、二〇分一八秒ほど流された。技術責任者の宮憲一は、「内地の放送でも珍しいほどはっきり映った。これで来年の東京五輪のテレビ中継で技術的な心配はすべてなくなった」と語った。

しかし、予定されていたケネディ大統領の日本国民に向けてのメッセージ（録画）はついに放映されなかった。

第二回目の実験放送は予定通り行われることになり、午前八時五八分、毎日放送の前田特派員がニューヨークから、「日本の皆さま、この歴史的電波に乗せて、まことに悲しむべきニュースをお伝えしなければなりません」と、沈痛な表情で事件のいきさつを伝えた。本来なら

▶ケネディの葬儀でのジャクリーヌ夫人(中央)、ロバート司法長官(右)、エドワード上院議員(左)。

PPS

初の日米宇宙中継で流れた衝撃の映像
ダラスからの悲報――ケネディ暗殺！

ば拍手と歓声がわき上がるこの放送の成功は、歴史を揺るがす痛々しいニュースで幕を開けた。この放送では、生前のケネディの姿、新聞スタンドに群がる群衆、半旗を掲げたビルなど、悲しみと追悼一色に染まったニューヨークの表情を日本の茶の間に伝えた。

「町行く市民の表情は不機嫌そうにこわばり、ランチ・カウンターで、遅い昼食をとっていた若い人々の中には、死亡確認のラジオ・ニュースにわっと泣き出した者もいるという」（「朝日新聞」三八年一一月二三日）

三〇年たっても残る「犯人は誰なのか」の謎

一一月二二日午後零時半、ケネディはオープンカーに乗って、ダラスの町の中心街エルム通りを走っていた。通りにはケネディを歓迎する群衆があふれている。「ウォーレン委員会」の報告（暗殺から一〇ヵ月後に作成された公式の報告書）によると、教科書倉庫ビル六階にひそんでいたリー・ハーベイ・オズワルド（二四）が、ライフル銃で撃った単独犯行とされている。銃弾の一発目はケネディ大統領の首から胸を貫き、前席のテキサス州知事のコナリーをも負傷させ、二発目は頭部に命中、そして三発目は大統領の後頭部を吹き飛ばした。オズワルドは、一時間半後、映画館にいるところを逮捕される。しかし、ダラス警察での尋問記録は何も残っていない。

大統領は即死ではなく、六キロ先のパークランド病院に収容され、三〇分の救命手当てを受けたが、死亡する。四六歳だった。医師団（六人）は解剖を要求したが、シークレット・サービスはこれを受け入れず（医師団に拳銃を突きつけたという説もある）、遺体は強引にワシントン郊外のベセスタ病院に運ばれる。

事件はまだ終わらない。オズワルドは事件の二日後に市庁舎で、ジャック・ルビー（五二）というストリップ劇場を経営するマフィアの下っ端に射殺される。

このケネディ暗殺事件はそれから三〇年以上たった今も謎にみちている。一体何があったのか。一九七六年、米国下院の暗殺関係調査委員会がスタートした時に、関係者で不審な死をとげた者は一二人にのぼると報告された。

▲11月24日、星条旗におおわれた棺（写真左）は、6頭の馬にひかれ、国会議事堂に向かった。葬儀は11月25日、ワシントン市内の聖マシューズ教会でとり行われ、約100ヵ国からの参列者があった。 Black Star／PPS

ケネディ家のその後

▲ジャクリーヌ夫人は、1968年8月、ギリシャの大富豪オナシスと再婚する。

ジョン・F・ケネディ大統領の一家には、悲劇の匂いがつきまとっている。ケネディは4男5女という兄妹の次男として生まれた。長兄のジョゼフ・ジュニアは第2次大戦で戦死し、政治に意欲を燃やす父親ジョゼフは、次男のジョン・F・ケネディに大統領への希望を託した。この願いは達せられたが、1963年ダラスで暗殺された。

1968年、三男ロバート・ケネディ元司法長官が大統領選挙に出馬し、民主党の大統領候補の座を確実にしたが、ロサンゼルスの祝賀会場近くで、射殺される。残った四男エドワード・ケネディも上院議員として大統領の座を視野に入れる位置にいながら、1969年7月に、チャパキディック事件で、大統領候補としての政治生命を失う。チャパキディックというところの橋から、午後11時頃、車が墜落し、エドワードは助かったが、若い女性運動員は溺死したのである。また、ジョン・F・ケネディの妻ジャクリーヌ夫人は、1968年、20歳以上も年上であるギリシャ人の海運王オナシスと再婚したが、1975年にオナシスが死亡。彼女自身も1994年、癌のため、人生の幕を閉じた。

そして今、ケネディ家の希望は、四男エドワード・ケネディ上院議員の息子、パトリック・ケネディである。彼は1994年の選挙でロードアイランド州から下院議員に当選。現在29歳。独身の最年少議員として女性たちの熱い視線を集めている。

事件を境に低下した超大国アメリカの力

事件の真相は見えない。諸説あるうち、オリバー・ストーン監督は映画「JFK」（一九九一年）でオズワルドは単なるおとりであり、ケネディが進めようとしたベトナムからの撤退を望まない、産軍共同の深い陰謀があった、と主張し、米国人に多大の衝撃を与えた。しかし、すべての真実が明らかになるのは二〇二九年（米国情報公開法により、すべての情報が公開される時）まで待たなければならないだろうといわれている。

『ケネディはなぜ暗殺されたか』（NHKブックス）の著者で、桜美林大学教授の仲晃氏は、ケネディ暗殺がもたらした影響について、「今からみると、ケネディの暗殺は単なる一事件ではなく、アメリカの戦後史を根底から変えるものだった。まさに分水嶺のようなもので、暗殺を境に、世界の超大国、最強国家としての国力が急速に低下、ベトナム戦争やウォーターゲート事件を見てもわかるように、国家や政府に対する絶対的な信頼感が次第に薄れていった」と語る。

ケネディが葬られているワシントンのアーリントン墓地には、毎年四〇〇万人もの人が訪れている。よき時代の象徴、若くて力強く、理想の大統領、ケネディの「神話」は今も生き続けている。

一九八三年のABC放送調査によると米国民の八〇％以上がオズワルド単独犯行説に疑問を抱き、同時に六九％の人が、再調査を望まなかったという。この大事件はアメリカに二つの選択を迫っている。ケネディ神話を守り事件を忘れ去るか、苦痛とともに事実を知るか――。

◀大統領の信奉者だったというジャック・ルビーに射殺された容疑者、オズワルド。 Black Star PPS

「チッソと水俣病」の決定的証拠！
ついに工場内汚染土から有機水銀発見

◀水俣病患者の硬直した手。患者のほとんどに求心性視野狭窄、難聴、言語障害、運動障害などの症状が現れた。　桑原史成

▲昭和46年12月、17歳の娘を風呂に入れる母親。この写真は、翌年の「ライフ」誌6月2日号に掲載され、〝水俣の悲劇〟は国際的に知られるところとなった。　W・ユージン・スミス／PPS

きっかけは猫だった。熊本県の水俣湾に面した漁村で、奇病にかかった猫が次々に痙攣を起こして死亡。そのうち、漁民たちが同じような奇病にとりつかれ、昭和三一年末までに六四人の患者が発生、二一人が死亡した。住民の不安が広がる中、決定的証拠が発表された。

「水俣奇病研究班」の分析データは語る

昭和三八年二月。奇病の原因について、医学的な立場から研究を進めていた水俣奇病研究班の入鹿山且朗熊本大学教授（衛生学担当）らは、最新の分析装置のデータ出力を固唾をのんで見守っていた。

分析装置にかけられているのは、水俣市にある新日本窒素（四〇年一月チッソと社名変更）の酢酸工場から直接採取したスラッジ（汚泥）。この中から有機水銀化合物が検出されれば、奇病の原因が同工場の廃液であることが証明される。そうなれば、それまで奇病と工場廃液との因果関係を否定し続けてきた新日本窒素に、もはや反論の余地はなくなる。

水俣病研究班と並行して、胎児性水俣病の研究を進めていた原田正純熊本大学助教授は、次のように当時を振り返る。

「三一年に初めて奇病が保健所に報告されてまもなく、厚生省の要請を受けて熊本大学医学部に『水俣奇病研究班』が作られました。この班が三四年七月に、新日本窒素水俣工場から排出される無機水銀が海に流出し、これが魚介類の体内に入って有機化、漁民がこの魚介類を食べることによって有機水銀中毒を起こしたのではないかと厚生省に答申したんです。

ところが、工場側は無機水銀がなぜ自然環境の中で有機水銀に変わるのかと反論し続けた。この答申をきっかけに『水俣奇病研究班』は厚生省から解散させられ、通産省の息のかかったスタッフが中核になった、経済企画庁主導の研究班に交替させられてしまったんです」

無機水銀は、工場内で有機化されていた

だが、熊本大学の研究者たちは「水俣奇病研究班」が解散させられた後も、原因追究の手をゆるめなかった。原田助教授が続ける。

「研究班がそう答申したのは、工場側が一貫して無機水銀しか使っていないと言い張っていたからですが、たしかに当時の学問水準では、自然環境の中でなぜ無機水銀が有機水銀に変わるのか説明できませんでした。動物実験のデータからも、奇病の原因は明らかに有機水銀中毒であることが証明されていたんです。その後もさまざまな実験を重ねたのですが、最終的に、工場内で有機化の作業をしているとしか考えられなかった。ところが、

「チッソと水俣病」の決定的証拠！
ついに工場内汚染土から有機水銀発見

▲胎児性水俣病患者の坂本しのぶさんが迎えた成人の日。母親が妊娠中に、有機水銀を含んだ魚介類を食べたため発病。　桑原史成

工場側はスラッジの採取に協力してくれませんでした。その時、数年前に酢酸工場から採取したスラッジが、研究室に保管されているのを思い出したんです」

入鹿山教授らが見守る中、分析装置が出力したデータには、間違いなく有機水銀化合物が含有されていることが示されていた。同年二月一六日、入鹿山教授は、熊本大学で開かれた研究発表会の席でこの事実を公表。これ以降、新日本窒素側は、患者側との和解の道を模索し始めることになった。

加害者側が、早く医学の真実を認めていれば……

だが、それまでの新日本窒素側の抵抗は、執拗だった。すでに三二年の段階で熊本大学医学部「水俣奇病研究班」は、ある種の重金属が魚介類を通じて人体に侵入したのが原因と推定し、湾内の漁獲を禁止する必要があると結論。汚染源として新日本窒素水俣工場の廃液が疑われたが、工場側は調査協力を拒否。

そればかりか三三年九月に、突然、百間港に流していた排水経路を水俣川河口へ変更。廃液は潮流に乗って不知火海全域に運ばれ、三四年三月以降、患者発生地域は水俣川河口付近から沿岸各地、さらに離島などへと拡大していった。

また、新日本窒素は、清浦雷作東京工大教授の「アミン説」や、大島竹治日本化学工業協会理事の「旧軍隊による爆薬投棄説」などを持ち出して、「水俣奇病研究班」の主張に対抗した。

医事評論家の川上武氏はこう語る。

「入鹿山教授の発表は、熊本大の研究者たちがひたすら医学の真実に忠実であろうとした結果です。加害者側は廃液と水俣病の因果関係が証明されれば、莫大な補償を迫られ、患者側には利益がもたらされる。そのため、補償を最小限に食い止めようと、欧米の学説を引用して水俣病の適用基準を狭い範囲に限定しようとしました。加害者側が、もっと早く真実を認めていれば、補償問題をめぐる訴訟もこれほど長引くことはなかったでしょう」

平成七年八月現在、熊本、鹿児島両県で死者を含めて認定患者数は二二六〇人にのぼる。水俣病未認定患者の救済問題で政治的和解が成立したのは、平成八年五月一九日。最初の患者発見から四〇年後である。

▶水俣病裁判第四回口頭弁論後のデモ行進。昭和四五年五月二〇日、熊本市にて。　塩田武史

女たちの肖像

松本弘子、「東洋の女性美」でパリのトップ・モデルに

稲葉真弓

マリリン・モンロー、エリザベス・テイラーなどに代表されるグラマーな肉体よりも、中性的な美がもてはやされるようになったのは昭和三〇年代もなかばのこと。ファッションの世界もキング・サイズのアメリカ的なモデルよりも、パリ・モードのエレガンスを表現できるほっそりとしたモデルが脚光をあびるようになり、そこに躍り出たのが、この年ピエール・カルダンの専属モデルになった松本弘子だった。身長一六七センチ、体重四五キロの彼女の魅力は「上品な細さ」に加え、「真っすぐの黒髪、黒い瞳」という東洋的な美にあった。

▲「東洋の女性美」を知らしめた松本弘子。

松本弘子が初めてパリ・モード界に認められたのは昭和三三年、カルダンが日本デザイン文化協会の招きで来日した折のことで、このとき催された講習会に、日本人モデルが一人選ばれることになった。次々とテストを受けたモデルの中で、一番最後に登場したモデル歴わずか四年の彼女に、カルダンの目がとまった。「素晴らしいマヌカンだ。東洋の神秘だ」とすっかり弘子に惚れこんだカルダンは五年後のこの年、専属モデルとして彼女と契約を結んだのだが、「どんな服でも着こなせること。全体がほっそりとしていて、顔が小さく、首が長く、おしりと胸が出っぱっていない」。つまり肉体が服の邪魔をしない、貴族的な体つきでなくてはならないというカルダンの理想のモデルに、松本弘子はぴったりだったのである。

彼女がデビューしたのは、親しかったデザイナーの桑沢洋子が、高校生だった弘子の日本人離れした顔立ちや整った姿態に注目し「アサヒグラフ」のカバー・ガールに推したのがきっかけだったというが、まさに彼女は、時代によって変化する肉体の美意識の中で、「東洋の女性美」を世界に知らしめた日本ファッション界初の女性だったのである。舞台をパリに移した後は、トップ・モデルの一人として「陶器のように美しいマヌカン」「磨きのかかった宝石」と絶賛され、モード界を席巻した。

三六年、カルダンの紳士物主任、アンリ・ベルゴーエルと結婚して女児を出産、現在も、かつてのトップ・モデルらしく日本版「ヴォーグ」の編集責任者として、最新パリ・モードの送信役をつとめている。

勝者・敗者

王座を奪い、失った海老原博幸「カミソリ」の拳

阿部珠樹

一九六〇年代に入ると、日本のボクシング界には、「フライ級三羽烏」と呼ばれる才能あふれる若手ボクサーが台頭してきた。金太郎のような童顔で倦むことなくパンチを繰り出すファイティング原田、天才的なボクシングセンスで相手を圧倒する青木勝利、「カミソリ・パンチ」の異名をとる切れ味鋭い左ストレートを武器にする海老原博幸である。この中でいち早く世界に名乗りを上げたのは原田だった。昭和三七年、タイのポーン・キングピッチをKOで破り、日本人二人目の世界チャンピオンの座につく。だが原田はリターンマッチですぐにタイトルを奪い返されてしまった。そのタイトル奪取に挑んだのが三羽烏の二番手、海老原である。

沢田教一

▲1ラウンド、2分7秒でのKO勝ちだった。

昭和三八年九月一八日、東京で行われたタイトルマッチのリングに、海老原は青白い顔で登場した。もともと色白の海老原だったが、大舞台の緊張が、顔色を一層青ざめさせていたのである。

しかし、初回のゴングが鳴ると、海老原は緊張を振り払うように、キングピッチに突進した。いきなり左右のフックを放ち、攻勢に出る。老獪なキングピッチも、この先制攻撃には虚をつかれた。体勢を立て直そうとまわりこむチャンピオンを、海老原が追う。左のフックをボディに決め、チャンピオンが左ストレートで応戦すると、満を持して必殺の左ストレートをアゴにたたきこんだ。もろくも倒れこんだチャンピオンは一度は立ちあがったが、もう反撃の気力は残っていなかった。ロープに追いつめた海老原はたちまちチャンピオンをリングに長々と寝そべらせた。

「ゴングが鳴って動いたら、体が軽いので勝てると思った」

色白の顔を紅潮させ、海老原は興奮気味にタイトル獲得の弁を語った。その後一度はタイトルを失った海老原だが、度重なる左拳の故障と闘いながら、四四年には同級王座決定戦で一位のホセ・セベリノに勝ち、再び王座に返り咲いたのはみごとだった。

朝日新聞社

共同通信社

▲**豪雪の薬師岳で遭難（1月22日）**愛知大山岳部13人が前月27日以来消息を絶った。写真は太郎小屋で「人影なし」の合図を送る朝日新聞記者。10月までに全遺体が収容された。

▲**文学座分裂（1月14日）**文芸評論家・福田恆存（写真中央）と岸田今日子・芥川比呂志ら劇団員29人が「文学座」を脱退し、「劇団雲」を結成、丸の内・東京会館で記者会見した。

▶**「38年1月豪雪」襲来（1月）**連日記録的な大雪に見舞われた北陸は、交通マヒ、食料不足のほか、死者・行方不明165人を出す惨状となった。写真は31日、長岡市で校舎の雪おろしをする子どもたち。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲**銚子沖で漁船座礁（1月30日）**入港しようとしていたマグロはえなわ漁船「第5鶴丸」が、灯台の明かりを見誤って座礁した。乗組員14人は全員救助された。

▶**呼び出し小鉄が引退（1月27日）**館内の隅々まで通る美声で愛されていたが、初場所千秋楽のこの日が最後となった。昭和36年1月の定年がファンや本人の希望で延長されていた。

浜口タカシ

昭和38年1月

1（火）●フジテレビ、国産初の連続アニメ「鉄腕アトム」の放映を開始する。
●交通違反の切符制が全国一〇都市で始まる。
2（水）●韓国から密航の五一人、小倉市の岸壁で発見。
3（木）●箱根駅伝で中央大が史上初の五連覇を達成。
●静岡県で一九歳の池谷薫が新彗星を発見。
4（金）●北海道、奥羽に吹雪。青函連絡船が欠航。
5（土）●地方財政は六六四億円の黒字、と自治省発表。
6（日）●幅五〇㍍、一〇車線の阪神第二国道が開通。
7（月）●文楽協会、正式に設立認可を受ける。
8（火）●布施市の少年が青酸ソーダ入り飲料を飲み死亡（9日、犯人を逮捕）。
9（水）●ライシャワー米大使、原潜の寄港を申し入れ。
10（木）●厚生省、島田療育園と琵琶湖学園を、サリドマイド障害児の特別医療保護施設に指定する。
11（金）●第一回日加閣僚委員会が開催される。
12（土）●千葉県、職員の土曜半数休暇制を実施（17日に自治省の指示を受けて19日限りで中止）。
13（日）●団地内駐車場の確保をめざす、公団住宅関東自動車クラブ連合会の第一回総会が開かれる。
14（月）●経済審議会が再発足。長期経済政策を策定。
●岸田今日子ら文学座脱退者が「劇団雲」結成。
15（火）●宇部興産、本山鉱閉山など炭業合理化を提示。
16（水）●能力開発研究所設立。大学入試の改革を立案。
●閣議、札幌市の冬季五輪立候補を、財政援助はしないという条件つきで承認。
17（木）●全国交通事故被害者および遺族協議会が発足。
18（金）●政府、砂糖の貿易自由化を決定する。
●板付飛行場上空で米F100戦闘機が爆発。
19（土）●新宿区で水道管が破裂。七万戸が断減水。
20（日）●前年一一月からTBSで放映の「コンバット」が子どもの間で人気上昇、と新聞に。
21（月）●新日本窒素水俣争議、一八三日ぶりに解決。
●池田首相、平城宮跡の買い上げを表明する。
22（火）●法務省、民青大会参加共産国代表の入国拒否。
23（水）●北陸地方に豪雪（28日までに死者八四人）。
24（木）●福井県勝山市で雪崩が起き、一六人が死亡。
25（金）●対ビルマ賠償に関する覚書、調印。
26（土）●石川県スポーツセンターの屋根が積雪で崩落。
27（日）●東京都砂川町長選で初の記号式投票を導入。
28（月）●労働省調査で労組数が戦後最高、と新聞に。
29（火）●自治省、地方開発事業団の設置要綱を発表。
30（水）●富山市の児童養護施設で赤痢が集団発生。
31（木）●建設業二四社がプレハブ建築協会を設立。

ニュース・ファイル

1963

フォト＋日録で再現する365日

東海道新幹線が時速二五六キロを達成し、翌年の五輪の年の開通に夢をつないだが、記録的な豪雪が北陸を中心に大きな被害をもたらし、吉展ちゃん事件や狭山事件などの誘拐殺人、サリドマイド禍、鶴見事故と、この年は暗いニュースが相次いだ。

◀**国鉄新総裁に石田礼助（5月11日）**十河信二の後を受けて内定。石田は元三井物産常務取締役で初の財界出身者。また前国鉄監査委員会委員長。新幹線建設による800億円などの赤字解消をめざす手腕に期待が集まった。

朝日新聞社

▶イラクでクーデタ(2月8日)1958年の軍事クーデタで君主制から共和制になったイラクでバース党将校団が蜂起、カセム政権を倒した。写真は首都を行く革命軍戦車。

◀高島忠夫・寿美花代が結婚(2月5日)人気映画俳優と、宝塚歌劇団の男役スターの2人だったため、会場となった東京のホテル・オークラは著名人ら900人でにぎわった。

WWP

共同通信社

◀新100万都市、北九州市誕生(2月10日)門司・小倉・若松・八幡・戸畑の5市が対等合併した。八幡は工業、門司は港湾と特徴を生かして、一体化による効率化をめざした。

▼信越線で貨車36両が脱線(2月28日)運転手がトンネル内で意識を失ったため、赤信号の越後岩崎駅に突進、停止柵に衝突した。豪雪で乱れていたダイヤに深刻な影響を与えた。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲ベールを脱いだ中尊寺金色堂(2月18日)国宝保存修理委員会によって移築のため「さや堂」が取り払われ、中から創建当時の鮮やかな金色堂が姿を現した。

▲エノケン、再起(2月12日)前年9月に脱疽の悪化で右足を切断、療養中だった喜劇俳優エノケンこと榎本健一が、義足をつけて歩行練習を始めた。

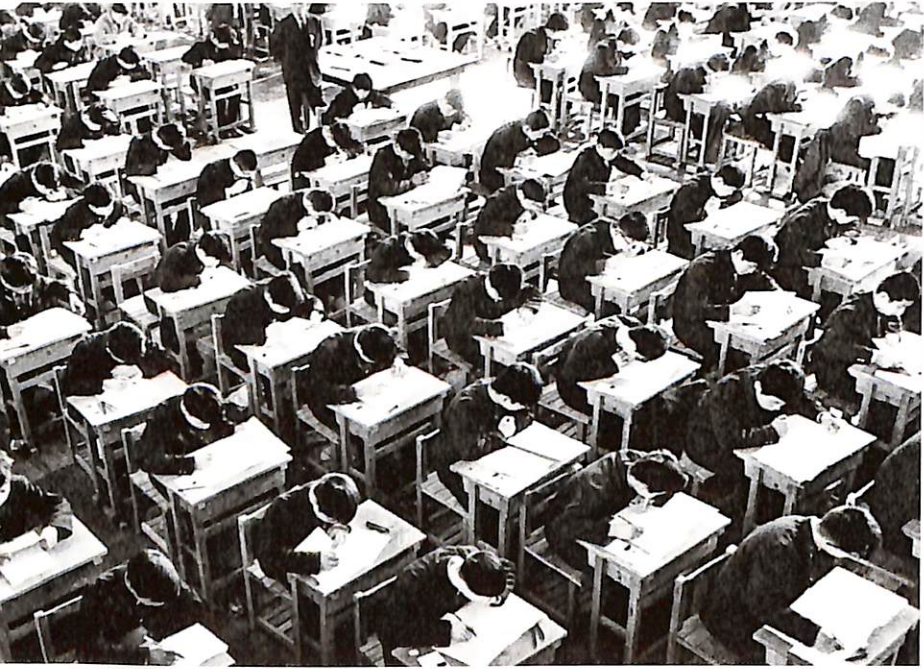
昭和38年2月

1(金)●トヨタ自販、初のマイカー・ローンを実施。
2(土)●大山康晴、将棋の五大タイトルを独占。
3(日)●東京のスーパーマーケットで盗難防止のため工業用テレビカメラを設置、と新聞に。
4(月)●長崎県五島沖でトロール船座礁。七人死亡。
5(火)●大蔵省、外国映画の輸入制限緩和を決める。
●三〇歳以上の二五％が潜在的高血圧と厚生省。
6(水)●IMF、日本の八条国移行勧告決議を採択。
7(木)●東京で外国スーパー進出反対の決起大会開催。
●全日本ろうあ連盟、大映映画「温泉芸者」のろうあ差別に抗議のデモ(3月1日大映謝罪)。
8(金)●革共同革命的マルクス主義派(革マル派)結成。
9(土)●キーパンチャーの健康管理で労働省が通達。
10(日)●五市合併し北九州市発足。人口一〇五万人。
11(月)●むつ市で自衛隊のヘリが墜落。六人即死。
12(火)●都の愚連隊防止条例施行以来、検挙八七〇人。
13(水)●米国務省、西山公使に綿製品四〇品目の対米輸出自主規制を要求する文書を手交。
14(木)●西独ケルンの法廷、マルマン・ガスライターを模造と判断し、輸入差し止めの判決。
●英国映画「アラビアのロレンス」封切。
15(金)●欧州並み賃金をスローガンに春闘統一行動。
16(土)●熊本大水俣病研究班、新日本窒素水俣工場内の泥から有機水銀を検出したと発表する。
●名古屋—四日市間の名四国道が開通。
17(日)●民族教育を重視する日本教育国民会議結成。
●寺沢徹、別府毎日マラソンで世界最高記録。
18(月)●日米加ソがオットセイ条約改定会議を開く。
19(火)●厚生・大蔵両省対立の「戦争未亡人給付法案」、受給者に所得制限しないとの首相裁断で決着。
20(水)●日本、ガットに一一条国への移行を通告。
21(木)●日本原水協、核実験全面反対で社共再統一。
22(金)●大蔵省、不当株取引自粛を証券業界に要請。
23(土)●厚生省『麻薬白書』。未成年の中毒者が増加。
24(日)●東京で女性だけの日本婦人交響楽団が初公演。
25(月)●福島県で山火事。四四戸と森林七〇〇㌶焼失。
26(火)●神戸港外で貨客船「ときわ丸」と貨物船が衝突して沈没。四七人死亡。
●石炭鉱業審議会、通産省の三八年度合理化計画を了承。閉山規模は産炭量四七二万トン分。
27(水)●住宅公団の六団地二七五五戸に、応募が八万通を突破し、公団発足以来最高を記録。
28(木)●名古屋高裁「昭和の巌窟王」吉田石松に無罪。
●全農連と農政連が合同し全国農民総連盟結成。

朝日新聞社

▲自衛艦と商船が激突(3月30日)現場は魔の浦賀水道と言われる東京湾で最も狭い水路。商船「賀茂春丸」の船首で自衛艦「てるづき」は後部に大きな亀裂を生じ、隊員5人が死亡した。

朝日新聞社

▶「最後の戦犯」の一人が帰国(3月12日)撫順戦犯管理所にいた元満州国官僚・古海忠之(写真中央)が、18年ぶりに解放され香港経由で帰国した。この時点で中国にはなお11人が残った。

毎日新聞社

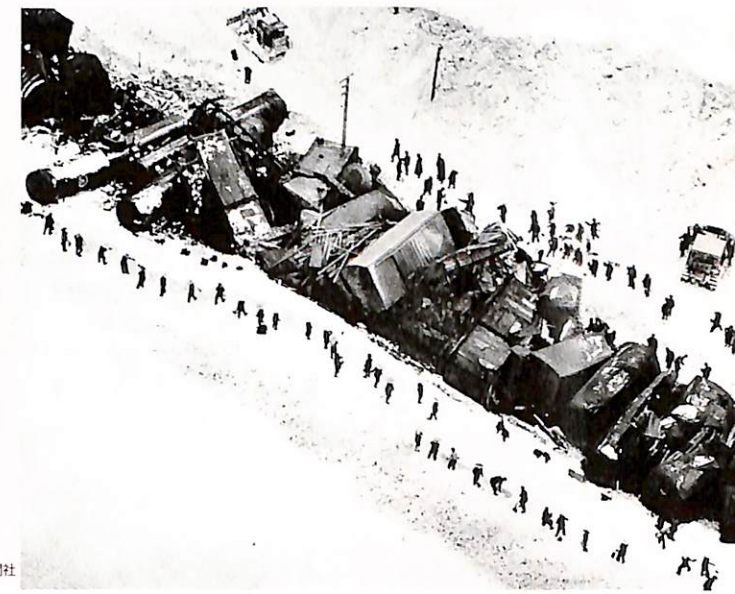
▲吉展ちゃん誘拐事件(3月31日)東京・台東区の村越さん宅から4歳の長男が誘拐された。4月7日、身代金要求の電話で犯人逮捕の機会を得たが逸した。2年後、小原保の自供から白骨化した死体が発見された。写真は村越さん夫妻。

▶東海道新幹線、時速256キロ達成(3月30日)国鉄の「夢の超特急」がモデル線区の小田原市鴨宮新幹線基地と神奈川県綾瀬町間で、列車の世界最速を記録。

◀都立高校、空前の入学難(3月1日)ベビーブーム世代の第一陣が高校入試を迎え、前年度を40万人も上回る約166万人が進学、都立高校は6.25倍もの難関となった。写真は東京中野区立八中での都立高入試。

朝日新聞社

共同通信社

昭和38年3月

1(金)●京大の天文台、月表面立体図作成の観測開始。
2(土)●政府、ILO八七号条約批准案件を衆院提出。
3(日)●大阪劇場で大阪松竹歌劇団の稽古中に宙吊り舞台が落下し、四四人が重軽傷。
4(月)●三七年の勤労者世帯の一ヵ月平均実収入は、五万八一七円と総理府が発表。
5(火)●文部省、養護学校学習指導要領を決定。
6(水)●埼玉県警、元鋳物工を百円硬貨偽造で逮捕。
7(木)●郵政省、勤務時間中の職場大会参加者を処分。
8(金)●中央薬事審、国産小児麻痺生ワクチンを承認。
9(土)●大阪市で下水道に流入したガソリンが発火。マンホールのふた四九個が吹き飛ぶ。
10(日)●白石市小原温泉の旅館で火災、七棟全焼。
11(月)●三七年の対共産圏輸出は前年の二倍増と判明。
●宮内庁、「平凡」連載の小山いと子作「美智子さま」の掲載中止を要求(12日中止を決める)。
12(火)●東京都、小中学生のため通学道路設置を決定。
13(水)●憲法調査会、第九条に関する討議を始める。
14(木)●蔵相、海外渡航などの自由化策検討を指示。
15(金)●兵庫県明石署、七中学の卒業式に警官を派遣。
●最高裁、公共企業体のストに刑事責任と判決。
16(土)●新潟県能生町で地滑り。四人死亡、列車転覆。
17(日)●全国公営住宅連合協議会が結成される。
18(月)●東京都、代々木にNHK建設と建設相に答申。
19(火)●新三菱重工、初の国産双発小型ターボプロップ機「MU2」を発表する。
●神奈川県警、美空ひばり邸などを賭博開帳の疑いで捜索。
20(水)●鎌倉・円覚寺で天井画「白竜」の開眼式を挙行。
21(木)●警視庁の深夜喫茶など摘発が一八八〇店に。
22(金)●建築生産協、プレハブの促進を建設相に提言。
23(土)●キヤノンが自動焦点カメラを試作、と新聞に。
24(日)●社会党・総評、佐世保で米原潜寄港阻止集会。
25(月)●公労委、賃金紛争処理で仲裁委員会を設置。
26(火)●警察庁、全通勤電車に警官を警乗と決める。
27(水)●最高裁、渋谷区議会の区長選任に合憲判決。
28(木)●国家公安委員会、逮捕時に死傷した協力者への特別報償金の支給基準を承認。
29(金)●ビルマとの経済技術協力協定に調印。
●東京都、銀座に騒音自動表示器を設置する。
30(土)●東海道新幹線試作車が時速二五六キロの世界新。
●先天性異常児父母の会が創立総会を開く。
31(日)●東京で四歳の男児誘拐(吉展ちゃん事件)。
●小児癌が三〇年で三倍、と小児科学会で報告。

▲サッチモ、10年ぶりの日本公演(4月25日)ジャズ·トランペット奏者、ルイ·アームストロングが来日、各地で7回の公演を行った。この日は、新宿厚生年金会館で、エネルギッシュな演奏を披露。

読売新聞社

朝日新聞社

▲オランダのベアトリックス王女、訪日(4月2日)天皇·皇后、皇太子夫妻と会談後、京都·長崎を見学、11日に帰国した。写真は9日、長崎の二十六聖人殉教地を訪れた王女。周囲に持ち前の明るく庶民的な笑顔を振りまいた。

▼訓練中の自衛隊新鋭機が墜落(4月10日)2次防で1年前に導入したばかりのF104Jジェット戦闘機が、北海道·千歳基地の滑走路南端に落ち、操縦士は即死した。エンジン制御装置の故障だった。

朝日新聞社

▼大阪に日本初の歩道橋完成(4月25日)限界に達していた駅前の交通混雑の緩和のため、横断歩道と車道を立体交差させた。9月10日には東京の国鉄五反田駅前にもできた。

毎日新聞社

▼沖縄と本土、27度線上の交歓(4月28日)11年前に沖縄と本土が切り離されたこの日、沖縄祖国復帰協議会代表と本土代表が境界線上で会見、沖縄復帰運動の推進を誓った。

沖縄タイムス

WWP

▲キューバ首相カストロと、フルシチョフが会見(4月29日)前日、ソ連政府差しまわしの特別機で到着。この日、モスクワのクレムリンに入り、「キューバ危機」の同朋と親しく語りあった。

昭和38年4月

1(月)●NHK学園設立。広域通信制の教育機関。
●文部省、小学一年生に教科書を無料配布。
2(火)●オランダのベアトリック王女が来日。
3(水)●東北大、低温麻酔による乳児(一歳未満)への心臓手術三二例中、一八例に成功したと発表。
4(木)●日英通商航海条約批准書が交換される。
●通産省、合成洗剤と電器の品質表示を義務化。
5(金)●東京地裁、八幡製鉄による自民党への献金を目的外行為と認定し、会社に損害賠償を命令。
6(土)●中国紅十字、日本人戦犯二名の釈放を通知。
●「ウエスト・サイド物語」、四七〇日の上映新記録を樹立(5月17日まで上映)。
7(日)●日本近代文学館が創立総会。理事長に高見順。
●NHK大河ドラマ第一作「花の生涯」始まる。
8(月)●新大学生の必需品購入費三~五万円と新聞に。
9(火)●プラハの世界卓球選手権で日本女子が四連覇。
10(水)●航空自衛隊千歳基地でF104J戦闘機墜落。
11(木)●高野山光台院で火災(13日、放火容疑者逮捕)。
●ボストン沖で米原潜「ストレッシャー号」沈没。
12(金)●千葉県が奨学金返済に給料天引き、と新聞に。
13(土)●原警視総監が報道機関を通じ「吉展ちゃんを返して」と、犯人に異例の呼びかけを行う。
14(日)●奈良署、東大寺大仏殿脇で喫煙した三人を消防法違反で検挙、一四人に警告。
15(月)●炭鉱離職者採用計画。政府関係に二七五三人。
16(火)●水戸地裁、筑波山頂は真壁町に帰属と判決。
17(水)●東大病院でサリドマイド児の機能回復手術。
18(木)●横浜市長に飛鳥田一雄が当選する。
19(金)●西武ストアー、社名を西友ストアーに変更。
20(土)●吉田石松の二二年服役の補償三一五万円余に。
21(日)●シンガポールのリー首相、日本は戦争中の残虐行為を謝罪すべきだと演説。
●水泳八〇〇メートルリレーで日本チームが世界新。
22(月)●相撲協会、健康管理に全力士の身体検査開始。
23(火)●法務省、刑法全面改正を法制審に諮問と決定。
24(水)●箱根神社、重文「箱根権現縁起」盗難と届け出。
25(木)●大阪駅前に日本初の横断歩道橋が完成する。
26(金)●日本学術会議総会、米原潜寄港反対を採択。
27(土)●車内暴力取締りのための鉄道公安機動隊発足。
●伊豆箱根鉄道のロープウェーが開通式。
28(日)●与論島沖で沖縄復帰要求の海上交歓会を開く。
29(月)●東京夢の島でゴミが自然発火。消防艇が出動。
30(火)●閣議、吉展ちゃん事件の解決のためとして警察の戸口調査の復活を検討すると決定。

証言・あの日この日
開高　健(32)

10月2日(水)　〈あたりにいる客は、若い人たちばかりだが、さまざまである。機械油のしみのついたジャンパーを着た工員。軽い咳をする大学生。はだしにビニールのサンダルをつっかけて肩にトレンチコートをひっかけた少女たち。……塵ひとつない背広姿でいっしんに書きものにふけっている青年。まっ赤な眼をしきりにパチパチひらいたり閉じたりしているサラリーマン〉(開高健『ずばり東京』)

オリンピックを前に大きく変貌する東京をルポして歩いた開高は、「暗がりで少年少女がタバコをふかし、キスをし、ヘビー・ペッティングにふけり、睡眠薬遊びをしている」と噂された深夜喫茶を探訪する。だがそこで彼が目にしたのは、噂とは違う光景だった。都条例で眠ることを禁止されているその場で、彼らは睡魔と戦いながら、一番電車が走り出すのをじっと待つ。(坪内祐三)

朝日新聞社

◀狭山事件、絞殺死体発見(5月4日)3日前、埼玉県狭山市で女子高生が行方不明となっていた。警察は23日、被差別部落出身の石川一雄を逮捕。後に最高裁は無期懲役の判決を下すが、現在も再審請求中。えん罪事件として議論を呼んでいる。

▼地対空ミサイル「ナイキ」公開(5月7日)東京の空の防衛を企図。千葉県習志野(写真)、茨城県霞ケ浦、埼玉県入間、神奈川県横須賀の計36基が公開された。

朝日新聞社

WWP

▲ローマ教皇ヨハネス23世の回復を祈る(5月31日)胃潰瘍のため危篤と伝えられると、世界平和に尽力したその功績を慕う信徒の祈りの姿が、法王庁前広場を夜どおし埋めた。

朝日新聞社

▼第1回日本グランプリ自動車レース大会開催(5月3日)三重県の鈴鹿サーキットで行われた日本初の四輪レース(1300~2500cc)。スタンドは熱心なファンで埋まった。

▼アフリカ統一機構(OAU)創設(5月25日)エチオピアのハイレ·セラシエ皇帝の呼びかけで、南アフリカをのぞく32ヵ国がアジス·アベバで調印。写真は第1回大会。

CORBIS·BETTMANN/PPS

昭和38年5月

1(水)●淡路島の諭鶴羽山に旅客機が墜落。九人死亡。
●警察庁、国連方式の新道路標識の使用を開始。
2(木)●文部省、道徳教育研究学校一八四校を指定。
3(金)●鈴鹿で第一回日本グランプリ自動車レース。
4(土)●厚生省、初の『児童福祉白書』を発表する。
●狭山市で女子高生の遺体発見(狭山事件)。
5(日)●野村万蔵ら、シアトルで米国初の狂言公演。
6(月)●国家公安委員会、狭山事件で埼玉県警に、犯人の早急逮捕をと異例の指示。
7(火)●小野田市大浜炭鉱で落盤事故。一五人死亡。
8(水)●赤十字創設百周年記念大会、東京で開催。
9(木)●中垣法相、誘拐事件の刑罰を強化すると言明。
10(金)●脱走自衛隊員、米国への密航に失敗し逮捕。
●三八年度の電話架設は、一〇六万台の申し込みに対し約七〇万台を計画、と電電公社。
11(土)●横浜市で市電同士が衝突、五五人重軽傷。
12(日)●F105D戦闘機、米軍板付基地に配備。
13(月)●法務省人権擁護局、厚生省にサリドマイド被害児の治療救済制度の充実などを要請。
14(火)●日仏通商協定がパリで調印される。
15(水)●政府、物価抑制のため牛肉緊急輸入など決定。
●大阪で近鉄電車同士が衝突。一〇六人重軽傷。
16(木)●横浜の総持寺で鑑真没後千二百年記念の法要。
●埼玉県毛呂山町の病院に米軍爆撃機が墜落。
17(金)●世界保健機関、テレビの性・暴力描写が未成年に与える影響の調査を各国に要請する。
18(土)●荒川区の浄閑寺で永井荷風文学碑の除幕式。
19(日)●築地市場の冷凍魚入荷が五年で三倍と新聞に。
20(月)●都の交通安全協会が中央交通相談所を開設。
21(火)●東海道新幹線工事に八七四億円不足と判明。
22(水)●最高裁、東大ポポロ事件で原無罪判決を破棄。
23(木)●埼玉県警、狭山事件容疑者として石川一雄を窃盗などで別件逮捕する。
24(金)●横浜港に日本初の太陽電池使用のブイ設置。
25(土)●アフリカ統一機構発足。三二ヵ国が参加。
26(日)●横綱大鵬、史上初の六場所連続優勝を達成。
27(月)●東京の帝国ホテルで従業員二七人に集団赤痢。
●北海道奥尻島で大火災。一一〇戸が焼失。
28(火)●閣議、小中学校の生徒数減少で一学級を五〇人から四五人にするよう決定。
29(水)●運輸省、国内航空一一の新路線開設を認める。
30(木)●国鉄、三河島事故(37年)の補償問題解決と発表。死者最高七二〇万円(推定)。
31(金)●通産省、トランジスタ等の対英輸出規制発表。

▲大山、名人位を死守（6月7日）1度は名人位を奪われたことのある宿敵、升田九段（写真右）の4年ぶりの挑戦に、4勝1敗で勝利。名人在位通算10期、連続5期2回の新記録達成に、思わず笑みがこぼれた。

朝日新聞社

WWP

▼初の女性宇宙飛行士誕生（6月16日）ソ連が打ち上げた宇宙船「ボストーク6号」に乗ったテレシコワ少尉で、地球を48周し19日に無事帰還。地上へのコールサイン「私はかもめ（ヤー・チャイカ）」は流行語となった。

▲ケネディ、西ベルリン訪問（6月26日）初めて東独内の〝孤島〟を訪れた大統領は、大歓迎を受けた。写真は検問所からベルリンの壁を見るケネディ（左上）。

▼浪曲師・広沢虎造引退（6月26日）4年前に脳出血で倒れ療養中だったが、言葉が回復しなかった。「清水次郎長伝」シリーズで一世を風靡した名調子が消えた。

朝日新聞社

▼黒四ダム完成（6月5日）31年黒部川上流の山岳地帯に着工して以来7年、171人の犠牲者を出した難工事のすえだった。総貯水量2億トンはアーチ型ダムでは世界第4位。観光地としても注目された。

昭和38年6月

- 1（土）●農林省、缶詰へのJASマーク付与を決定。●英国映画「〇〇7は殺しの番号」封切。●ILO、日本に八七号条約の批准を勧告。
- 2（日）●神戸市営バスの女性車掌、料金着服の容疑で身体検査されたことに抗議し自殺。
- 3（月）●原燃、岡山県人形峠でウラン鉱床発見と発表。●気象庁、浅間山火山活動の試験観測を開始。
- 4（火）●日本漁船、大西洋で伊タンカーと衝突、沈没。
- 5（水）●黒部川第四発電所（黒四ダム）が完成する。●舟木一夫「高校三年生」のレコード発売。
- 6（木）●神戸の貨物船が潮岬沖で遭難。三三人不明。
- 7（金）●最高裁、離婚原因を作った側から出された、性格不一致を理由とする離婚請求を却下。
- 8（土）●文相、脱脂粉乳の給食実施を全教育長に要請。
- 9（日）●靖国神社で戦艦「陸奥」の乗員千余人の慰霊祭。
- 10（月）●根室半島沖の操業で日ソこんぶ協定を調印。
- 11（火）●函館市で市電同士が衝突。五三人重軽傷。●弾圧に抗議の僧侶、サイゴンで焼身自殺。
- 12（水）●日本初の本格グラフィック誌「太陽」創刊。
- 13（木）●小さな親切運動の本部が東京に開設される。●大阪で点訳英和辞書（全七一巻）の完成祝賀会。
- 14（金）●伊東光男、英オートバイレース50ccで優勝。
- 15（土）●NHK、茨城県で日本初のUHF本放送開始。
- 16（日）●横須賀で原潜寄港反対集会。一万人が参加。
- 17（月）●名古屋でサリドマイド賠償請求初の提訴。●米音楽誌で坂本九「スキヤキ」が一位と新聞に。
- 18（火）●自民党、職安法改正案を委員会で強行可決。
- 19（水）●日体協、東京五輪全種目に日本の参加を決定。
- 20（木）●観光基本法公布、施行。外国人客誘引策など。
- 21（金）●韓国政府、抑留日本漁船員四二人を釈放。
- 22（土）●大阪地裁、吹田事件（27年）で騒乱罪を否認。●山路自然科学振興財団の創立役員会を開催。
- 23（日）●墨田区で走行中のタクシー（LPG車）が爆発。
- 24（月）●厚生省、市販睡眠薬の半数を劇薬に指定。
- 25（火）●電器小売団体、安売り防止のための統一規定を作り、公取委に申請する。
- 26（水）●三井鉱山労組、五鉱山で合理化反対のスト。
- 27（木）●物価上昇は賃金上昇が原因、と経企庁報告。
- 28（金）●初の貿易記念日。各地で記念行事を開催。●厚生省、アイバンク設立基準を自治体に通達。
- 29（土）●三七年漁獲量六八六万トンで世界一、と農林省。●警察庁、全国で暴力団摘発。一九七五人検挙。
- 30（日）●広島－アウシュビッツ平和行進が終了する。●プロ野球の金田正一が三一一勝の日本記録。

20世紀博物館

横浜税関資料展示室

昔「ジョニ黒」、今「ピストル」。密輸品から時代がわかる

神奈川・横浜市

桑原茂夫

◀コミックに出てくるような仕掛けで、密輸された拳銃。

日本が鎖国を解いた時代から、海を越えて出入りする、ありとあらゆるものをチェックしてきた横浜税関の建物の一隅に、資料展示室がある。昭和四七年には輸入品のサンプルを一般に公開する展示室として、建物の奥まったところにオープンしていたが、平成元年に、もっとよく見てもらおうと入り口に近いところに移したそうだ。

二〇〇平方メートルほどの空間に、生活物資の輸入原材料やワシントン条約で輸出入が禁止されている動物の剥製、それにニセのブランド品やピストルなどの密輸の手口が展示されていて、海を越えるということの実態をかいま見る思いがする。

密輸のコーナーでは、ピストルと麻薬の存在をきわだたせて展示してあるが、そもそも密輸は、正規の物流・流通の隙間をついて行われるもので、摘発されるリスクを冒してまで敢行するにたる理由があるはずだ。これについて、この展示室を運営している横浜税関広報室の松野史利さんは、「ピストルの密輸の様子が変わってきて、かつては暴力団が自分たちで使うために密輸することが多かったのですが、最近は、ピストルを一般にも流通させるような新しい密輸ルートが出てきたようです」と、憂慮すべき事態が起こりつつあることを指摘している。

それにピストルは、いったん入ってしまうと、何かの折に押収でもされないかぎり、次第にその総量を増していくという厄介な面を持っている。松野さんが懸念するのも当然なのだった。

ところで同じ「密輸」でも、自分が使うために密輸するのと、それを流通させ利益を得るために密輸するのとでは、大きな違いがある。密輸の大部分は、旅行の際に持ちこむ個人的なレベルのものだが、これが利益追求のためのものになると、組織的で手口も複雑巧妙になり、いきおい、摘発の網をくぐり抜けるケースも多くなるのである。

本物よりニセ物を密輸

ピストルや麻薬もそうだが、需要度が高いものほど密輸の価値が高まるのだから、密輸の傾向は、その時代をくっきりと描き出すことになる。

松野さんによると、戦後から昭和三〇年代までは食料品の密輸が多かったそうだ。食料であれば、何でも売れた時代だ。

それが、昭和三〇年代から四〇年代になると、同じ口に入るものでも、ウイスキーやタバコなどの嗜好品が多くなった。あの「ジョニ黒」（スコッチのブランド）や「洋モク」（外国産のタバコ）がハバをきかせた時代だ。

さらに昭和五〇年代に入って、密輸の傾向はがらりと変わる。ファッション系のブランド品や貴金属が多くなっていく。ちなみに、ブランド品では、見栄のためか正規の申請をして、ニセ物の方を密輸しようとする傾向が強かった（今でも強い）そうだが、その運び入れ方や、ニセ物と本物の違いなどが、この展示室で具体的に見ることができる。

▲輸入されている岩塩。展示されているメキシコ産の天日塩は、持ち帰ることもできる。

人間の欲望の限りなさを、こうして現実の形で示されると、ここまでやるか！と笑い出したくなる。ちょっと複雑な気分にさせられる展示室だった。

●横浜税関資料展示室
神奈川県横浜市中区海岸通一－一
☎〇四五－二一二－六〇五三
JR関内駅下車、徒歩五分
開館時間＝一〇時～一六時
休館日＝土曜、日曜、祝日

▶ディズニーグッズやグッチのバッグの巧妙きわまるニセ物。

平野美津子

ベストセラー

『徳川家康』『危ない会社』などサラリーマン向けが目白押し

この年のベストセラー・リストを見ると、サラリーマンを読者対象にした経営・経済ものが目につく。トップの『徳川家康』（講談社）にしても、そこからサラリーマンにとっての人生訓、処世訓を読み取ることができるというところに人気の秘密があった。

高度成長期に入って忙しくなってきたサラリーマンが、先行きに対する一抹の不安を払拭するような情報を求めたのは当然のことだった。人生訓・処世訓もさることながら、ビジネス社会の具体的な情報が求められていたのである。カッパ・ビジネスの『危ない会社』が、ベストテン二位に躍り出たのも、そんな要求にこたえるものだったからにほかならない。

『危ない会社』の冒頭で、著者の占部都美は「『自分の会社がつぶれる前夜まで、社員はだれ一人何も知らなかった。』これが倒産会社に共通してみられることだ、いったい、これは、どうしたことだろうか」と書いた。会社安泰を前提としていたおおかたのサラリーマンにとって、これはショッキングな疑問提示であった。しかも、それに続いて、具体的に社名をあげながら、問題点を鋭く指摘していくという追い打ちがかけられた。ベストセラーになる条件が、そろいすぎるほどそろっていたのである。

また、中央公論社の「中公新書」第一弾でもあった『流通革命』が、近未来のビジネス社会を予言する本として、硬い内容にもかかわらず多くの読者に歓迎されたのも、時代の雰囲気をものがたっている。

こうしたサラリーマン向けの本の動きとは別に、少女マンガが巨大マーケット形成の動きを見せ始めていた。前年末に講談社から創刊された週刊誌「少女フレンド」に続いて、五月に集英社が「マーガレット」を創刊、注目を集めた。

●昭和38年のベストセラー

順位	書名（著者／出版社）
1位	『徳川家康』（全19巻／山岡荘八／講談社）
2位	『危ない会社』（占部都美／光文社）
3位	『性生活の知恵』（謝国権／池田書店）
4位	『時間の習俗』（松本清張／光文社）
5位	『物の見方考え方』（松下幸之助／実業之日本社）
6位	『永遠のエルザ』（J・アダムソン／文藝春秋新社）
7位	『図々しい奴』（全3巻／柴田錬三郎／光文社）
8位	『流通革命』（林周二／中央公論社）
9位	『交換日記』（玉井美智子／秋元書房）
10位	『太平洋ひとりぼっち』（堀江謙一／文藝春秋新社）

全国出版協会出版科学研究所

▲占部都美『危ない会社』（光文社、290円）

▲林周二『流通革命』（中央公論社、200円）

▲「マーガレット」（集英社、50円）

スターと名場面

「にっぽん昆虫記」が描いた高度成長にとり残された人々

高度成長を背景に、下層社会で生きる人々を描いた映画が話題を呼んだ。ひとつは「にっぽん昆虫記」で、今村昌平監督の代表作ともなったこの映画は、農家に生まれ貧しい生活を経た女の逞しい生きざまを描いたもの。時代を象徴するさまざまな実写シーンを挿入しながら、売春組織を運営したり、仲間に裏切られ刑務所に入ったり、パトロンの男を実の娘に奪われたりする波瀾にみちた女の一生が、左幸子や、娘役の吉村実子の名演技とともに描き出されている。

また、黒澤明監督・三船敏郎のコンビで作られた「天国と地獄」は、製靴会社の経営者宅を仰ぎ見る、文字どおりの底辺に生きる青年の誘拐犯罪を描いた映画だが、ラストシーンで、青年を演じる山崎努が経営者の三船敏郎に対して「三畳の部屋から見上げるあなたの家が天国のように思えてきた」と言い、自分が死刑になって地獄へ行くことは怖くないと言い張るその姿に、否応のない貧富の差の現実を重ねて見ることができた。

そんな時代に、一人の歌手が、劇的なサクセス・ストーリーそのままに、あっという間にスターの座に昇りつめた。舟木一夫である。そのデビュー作「高校三年生」が大ヒット、今もなお多くの人の記憶に残るものとなった。

黒澤プロ・東宝提供

▲「天国と地獄」の誘拐犯とやりとりする三船敏郎（左）と、刑事役の仲代達矢（右）。

東映提供

▲60年安保反対運動を戯画的に描いた「真田風雲録」。

▼学生服姿で歌ってヒットした舟木一夫の「高校三年生」。

日本コロムビア提供

▶「にっぽん昆虫記」の左幸子（左）と、やはり逞しく生きる女の春川ますみ（右）。

にっかつ提供

モノ語り'63

「サインペン」「タッパーウェア」いずれもヒット商品のブランド名です

◀**四畳半の部屋にも「洋服ダンス」が** 軽金属のパイプとビニール地で、簡単に組み立てられ、しかも、洋服を吊るした状態で収納できる「ファンシーケース」が、8000円〜1万5000円の価格で、村田合同から発売され、多くの若者を喜ばせた。核家族化が進むとともに、狭い生活空間を移り住むライフスタイルが広がりつつあった時代だっただけに、大ヒット商品となった。今までで、220万本を超える売り上げを記録しており、核家族時代の象徴的商品のひとつに位置づけてよさそうだ。

▲**「タッパーウェア」は実は商品名です** すでに一般名詞のイメージがあるタッパーウェアは、実は日本タッパーウェアがこの年、販売普及させたプラスチック製密封容器の商品名だった。スマートさと優れた密封機能が受け、たちまち定番商品となった。写真は当時「食卓ボールセット」と称されていたもの（1300円前後。現在名「フラワーボールセット」）

◀**小切手の横書きで一気に普及** 全国銀行協会連合会は、4月1日から、小切手の横書きを採用することに決定、手書きの場合は漢数字で、算用数字にはチェックライターの使用が義務づけられた。もちろん書き換えなどの偽造防止のためで、これをもってチェックライターはオフィスの必須用具となった。すでにこれを独占的に製造販売していた日邦機器（現・テクノ・セブン）は、強力な増産体制を敷いて、急増する需要にこたえなければならなかった。写真のH型で6000円。

▶**筆記具に新しい定番の誕生** 「サインペン」という名称は、今でこそ一般名詞として用いられているが、もともとは大日本文具（現・ぺんてる）が開発した画期的な携帯用水性ペンの商品名だった。1本50円の、筆のようなペンとして重宝がられ、発売年の暮れには2ヵ月間で80万ダースが売れるヒット商品となった。後にNASAの宇宙飛行士の携帯品に選ばれて評価を決定的にし、今ではすっかり文具の定番商品となっている。

▼**機能的なデザインと手頃な価格** セーラー万年筆が発売した、キャップより本体が短い万年筆「セーラーミニ」は、上着の内ポケットだけでなく、それより小さいワイシャツの胸ポケットにもまっすぐ挿せる、機能的な文具として若者中心に人気を呼んだ。しかも、機能的なだけでなく、価格が1000円からと手頃で、万年筆としての質も他にヒケをとるものではなかった。

▲**朝食のイメージを大きく変えた商品** 国産のコーンフレークがこの年、味の素から1箱100円で発売された。トウモロコシを素材にした朝食用の食材だが、日本にはまったくなじみがなかったから、発売当初は、お菓子としてしか認識されず、スーパーでも菓子売り場に並べられてしまった。それに、食べ方自体がわからないのだから、ひと目でそれとわかるようにパッケージにも工夫をこらすなど、発売元もだいぶ苦労したという。

▲**サムソナイトが本格的普及のきざし** アメリカのスーツケース会社大手サムソナイトの日本における販売権を得ていた、新川柳商店が、旅行ブームの到来を予感させたこの年に、社名をエースとあらため本格的にサムソナイトとの技術提携に乗り出した。それと同時にサムソナイト製品の普及をはかり、1万円を切る新しいタイプのサムソナイトも売り出していった。

▲昭和三九年一二月、いしだあゆみ（右）、中尾ミエ（左）とNHKの番組で共演。二三歳になったばかりの九ちゃんは、ヘアスタイルを坊ちゃん刈りからケネディカットに変えて、大人の雰囲気に。

野上透

人物クローズアップ

坂本九（二二）

世界に通用した和製ポップス「スキヤキ」全米一位にランク

▲昭和六〇年、家族そろってハワイ旅行に。右から柏木由紀子、舞子、本人、花子、蔦（義母）。

柏木由紀子提供

坂本九の「上を向いて歩こう」（永六輔作詞、中村八大作曲）が、「SUKIYAKI（スキヤキ）」と改題されてアメリカで大ヒット。六月一一日に音楽情報誌「キャッシュ・ボックス」で四週間、一五日には「ビルボード」で三週間、ヒットチャート第一位の座に君臨した。坂本はこの時二一歳、日本人歌手として初の快挙だった。

永六輔は、「音楽を言葉で表現するのは難しいんだけど……」と前置きして、「この曲はメジャー（長調）とマイナー（短調）が同居してるんです。イントロは行進曲のようなメジャー、中間に寂しいマイナー、そして最後にまたメジャーに戻る。ふつう、どちらか一方で通すものなんですが、そういう意味で珍しい曲なんです。このことが国や風土の違いを越えて、エキゾチックで不思議な感じを与えたんだと思います」と語る。

「スキヤキ」という曲名は、欧米人が発音しやすく、簡単におぼえることができ、また異国情緒を強調するためにつけられたという。ワシントン州の深夜DJで取り上げられたのを機に、ティーンエイジャーたちの人気を集めた。キャピトル・レコードから発売されたレコードは、昭和三九年に一〇〇万枚を突破、坂本は全米レコード協会からゴールデン・ディスク（黄金盤）を贈られた。

フランス、ドイツなどでもヒットし、最終的には世界六九ヵ国で、約一三〇〇万枚の売り上げを記録した。

ロカビリー歌手から出発

坂本は昭和一六年、九人兄弟の末っ子として神奈川県川崎市に生まれ、本名は大島九（ひさし）。みずから「グレてた」という中学時代にエルビス・プレスリーに憧（あこが）れ、ロカビリー歌手を志す。三三年、日大横浜学園高校在学中の一六歳の時に、日劇ウェスタンカーニバルで歌手デビュー。

坂本が「上を向いて歩こう」を初めて歌ったのは三六年七月の「中村八大リサイタル」でのことで、翌月NHKテレビのバラエティ番組「夢であいましょう」で熱唱し、大きな反響を呼んだ。「六・八・九コンビ」による最初の曲だった。

「八大さんは中国の青島（チンタオ）でドイツ音楽のクラシックを学び、これをベースにアメリカのジャズに惹（ひ）かれていきました。また彼は、アレンジャーとしても天才的な能力を持ってましたね。一方、九は〝こぶし〟を使った日本の伝統音楽を身につけていて、端唄（はうた）や小唄など何でもうまくこなせたし、口笛もとっても上手だったんです。この二人の組み合わせがよかったんじゃないかしら」（永六輔）

坂本はその後「見上げてごらん夜の星を」（いずみたく作曲）、「幸せなら手をたたこう」「ジェンカ」など次々にヒット曲を飛ばし、四六年に女優の柏木由紀子と結婚。「明るい笑顔」の反面「寂しがり屋」の側面もあわせ持っていたという坂本は、司会者としても活躍するかたわら、あゆみの箱運動や障害者支援のための福祉運動にも熱心に取り組んだが、六〇年八月一二日、御巣鷹（おすたか）山での日航機墜落事故で死亡した。享年四三。

なお「スキヤキ」は五六年にアメリカのロックグループ、テイスト・オブ・ハニーが英語版を発売して再びヒットし、さらに、平成七年には黒人グループの4PMがリズム&ブルース風にアレンジして再レコード化。美しいハーモニーが人気を集め、三二年ぶりに「ビルボード」誌のベストテン入りをはたした。

▲昭和46年、梅田コマ劇場公演のフィナーレ。

▲大ヒットの記念に贈られたゴールデン・ディスク。

決定的瞬間

“血の弾圧”続くサイゴンで わが身にガソリンをかけ 白昼、老僧が抗議の焼身自殺

六月一一日、事件は突如、サイゴン（現・ホーチミン市）のカンボジア大使館前で起こった。一人の僧侶が、車からガソリンが入ったポリ容器をおろし、座っていた別の僧侶へ振りかけてマッチで火をつけた。一瞬にして火が体を包んだが、その僧侶は座ったままであった。まわりには多くの僧たちが手を合わせ、焼け焦げる姿を見守っていた。

南ベトナムでは、ゴ・ジン・ジエム政権のカトリック偏重と仏教徒に対する弾圧が日増しに強まっていた。人口一五〇〇万人のうち七割以上が仏教徒で、カトリック教徒は一割にすぎない。しかしゴ・ジン・ジエム大統領みずからが熱心なカトリック教徒であり、次兄のゴ・ジン・トックは大司教ということもあり、政・官界や軍部の要職はすべてカトリックで占められていた。一方、仏教徒に対しては仏教の旗を掲げることを禁止するなど、厳しい制限を設け、信仰による差別も多く、仏教徒の憤りを募らせていた。

仏教徒の不満は、五月七日、仏教の最大拠点である古都フエで爆発した。釈迦生誕祭の行進が禁止されたからだ。僧侶たちは民衆とともに抗議デモを行い、軍隊・警察官と衝突、一二名の死者を出した。これ以後、全国各地で仏教徒の抗議デモやハンガーストライキが続発。ゴ・ジン・ジエム大統領の政治顧問で蔭の実力者といわれた弟のゴ・ジン・ヌーは、寺院を鉄条網で取り囲み、僧侶たちに水を運ぼうとした民衆を棍棒でなぐり倒すなど、公然と血の弾圧を繰り返した。

六月一一日、七三歳の老僧チー・クアン・ドックの焼身自殺は、まさにゴ・ジン・ジエム政権の仏教徒弾圧政策に対する死をもっての抗議であった。

翌一二日、仏教徒指導者は、「み仏の光がゴ・ジン・ジエム大統領の魂を照らし、仏教徒の最低五要求を認めるよう改心させ給え」という、クアン・ドック師の遺書を発表した。最低五要求とは、仏教旗掲揚禁止の解除、仏教教育の認可、逮捕された仏教徒の釈放などである。

一三日には、サイゴンのハ・ロワ寺院で約二〇〇〇人の仏教徒が参列して葬儀が行われた。しかしバスなどの交通手段を絶たれたと怒った人々数百人が、同寺院まで行進しようとしたところを警察側に制止される。対立の度は深まるばかりで、その後も仏教徒の反政府運動は一段と燃えさかった。

民衆の反乱の危険が強まると、アメリカ政府は南ベトナム政府に対し、仏教徒の抗議行動をすみやかに解決することを強硬に要請。一六日にはアメリカの圧力で閣僚間委員会が開かれ、仏教徒の要求を一部受け入れた。しかし、なお政府側の仏教徒弾圧が陰険に続けられたことに対し、仏教徒側は八月四日に、二人目となるガソリン自殺で、さらに抗議の火をつきつけ、ハンガーストライキと抗議デモが各地で日常化した。

▲6月11日、南ベトナム・サイゴンで政府の仏教徒弾圧に抗議して焼身自殺をするチー・クアン・ドック師。これを契機に仏教徒の反政府運動はその度を強め、焼身自殺も相次いだ。

マルコム・ブラウン(AP)・WWP

完結までに二二年！「撮影の亡者」土門拳の『古寺巡礼』刊行始まる

この年から、土門拳の写真集『古寺巡礼』の刊行が始まった。この作品集は昭和五〇年に第五集を出して完結するまでに一二年をついやした土門拳のライフ・ワークで、いわば「写真家」土門拳を集大成したものというだけでなく、日本の写真史においても大変重要な位置を占める作品集と言える。二松学舎大学教授・岸哲男は、次のように記している。

「土門拳の仏像写真の特徴は、レンズをギリギリに絞った鮮鋭描写によるおそろしいまでのその実在感にある。土門の唱えた『写真におけるリアリズム』は、ここに十分に生かされている。……土門拳の仏像は、仏像に変りはないのにどこかあたたかく、それに相対し凝視している作者の眼が感じられる。土門拳は、好きだからその仏像を撮ったのである。だから仏に血が通ったのであろう」（『土門拳全集一』）

昭和一四年、名取洋之助の「日本工房」を退社した土門は国際文化振興会の嘱託カメラマンとして独立、美術史家・水沢澄夫とともに名刹の撮影を開始する。当時のことを彼は次のように記している。

「ぼくのカメラによる古寺巡礼は、昭和一五年五月に始まる。鉄道省国際観光局の映画撮影に便乗して、京都の太秦広隆寺、奈良の中宮寺へ行ったのが初めてである。……最初にぼくの心をとらえたのは弘仁時代の一木造の仏像だった。……内部に鬱積するものを自然に流露させるにいたらず、まるで怒っているみたいに苦渋な表情をたたえた弘仁彫刻は、それはそのまま、当時、戦争政策の進行とともに、戦争協力以外のすべての道を閉ざされた日本知識階級の表情とも受けとれた。ぼくは憑かれたように弘仁彫刻を求めて、全国の寺々のカメラ行脚を続けた」（『土門拳全集一』）

戦争中も徴用工になることを拒み、報道班員になることを拒み通した土門は、仏像や文楽の撮影に打ちこみ、報道班員になった写真仲間からは「非国民」とののしられた。

昭和二〇年、日本に平和の日が返ってきた。戦後の混乱期に配給米を背負って彼が通ったのは奈良の室生寺だった。戦争で敗れた時こそ、古典の中に日本民族の自主独立の矜持とバイタリティをさぐろうとしたのだ。焼野が原の東京から来た土門にとって、室生寺の青い空、みどりの山、丹塗りの堂塔は、格別の感慨を誘った。

その後も土門は原爆の爪痕を鋭くえぐった『ヒロシマ』（昭和三三年）、石炭不況にあえぐ北九州炭鉱をテーマに、ザラ紙に印刷した一〇〇円という超廉価版の『筑豊のこどもたち』（昭和三五年）などで現実を厳しく見つめるドキュメントのスタイルを確立する一方、あいかわらず寺院の撮影を続けていた。

土門拳は言う。「奈良や京都の寺をまわって日本の古典を追求する仕事と、アクチュアルな社会問題と取り組む仕事とは一見矛盾し、相反するように見えるが、ぼく自身にとっては同じことだった。縒り糸がないまじっているだけで、一本の綱であることに変わりはなかった」

精力的な活動を続けていた彼に、突然病魔が襲う。長年の過労がたたって、昭和三四年、脳出血で倒れたのだ。半年余りの療養を強いられた後、再び彼はカメラを手にする。しかし右半身不随とあっては愛用の小型カメラを操作することはままならず、三脚に据えつけた大型カメラに切り替え、再び寺院行脚が始まった。

その頃、土門拳の助手をしていた牛尾喜道は、次のように語っている。

「土門先生は執念の方でしたね。自分に納得のいくまでそのお寺へ何度も何度も足を運ぶ。薬師寺など何十回も通ったものですから、高田好胤師は先生のことを『撮影の亡者』とおっしゃってました。ただの静物写真ではなくて、その対象が動いている一瞬を切り取る、たとえば建物なども刻一刻動いている、姿を変えているというのが先生のお考えでした。よく『仏像が動いている』『仏像が走っている』ということをおっしゃってました」

まさに日本民族の基盤になっているものを執念で撮り続けた作品集が『古寺巡礼』なのである。

▲昭和三九年、京都・平等院鳳凰堂屋上で鳳凰の撮影に取り組む土門拳。 土門拳記念館提供

▲「平等院鳳凰堂夕焼け」。昭和36年撮影。平等院の撮影を終えて、振り返った土門拳の目にあかね雲を背にした鳳凰堂のシルエットが飛びこんできた。カメラを組み立て、夢中でたった1枚シャッターをきった。 土門拳

「現場」を歩く

大牟田

まだ入院患者がいる 三川坑大爆発の跡

山本徹美

▲石炭産業は、戦後のエネルギー革命の影響で斜陽化する。写真は三井三池鉱業所の敷地内にあるトロッコの軌道。

昭和三八年一一月九日午後三時一五分すぎ、突如、爆発音が大牟田市街に響きわたった。数分後、もうもうと黒煙が天を衝く。その出所は、三井三池鉱業所三川坑。第一斜坑の坑口から約五〇〇㍍先、二目抜き、三目抜きと呼ばれる地点で大爆発が起きたのだ。有明海の海面下約三五〇㍍に展開する炭鉱内に在坑者は一九四四人。

爆発もさることながら、この災害が突きつけたのは急性一酸化炭素中毒のすさまじさだった。内臓破裂や脳挫傷など爆死が二五人だったのに比べ、急性一酸化炭素中毒による犠牲者は四三三人。ほかに、八三九人が罹災。そのうち八人が一ヵ月以内に死亡、その後一五年間に二九人が生命を落とし、現在もなお入院加療中の患者が二九人いる。

現場検証の結果、災害の原因は送炭ベルト原動機付近にたまっていた炭塵が、摩擦熱か電気のスパークによって引火、爆発したものと判明。労組はこの災害が会社側の故意・過失によるもの、と猛反発する。三池炭鉱労働組合の芳川勝組合長が振り返る。

「石炭に付着した炭塵は水で洗い落とすだけで保安対策は万全。ところが、一二台のベルトコンベアに対して原動機当番はたった一人だった。これでは石炭の清掃は物理的に不可能です。闘争前には当番を一二人配置していたのに、合理化を理由に一人にした。それがこの大変災を招いたのです」

闘争とは昭和三四年一二月に端を発する労働争議、いわゆる三池闘争のことである。背景には石炭から一気に石油へと転換をはかろうとした政府の強引なエネルギー政策がある。不況を理由に会社は一四九二人を指名退職勧告、赤紙よろしく各人に勧告状を配布した。一方、労組は全面ストで対抗。両者の対立は険悪化、会社が雇った暴力団員によって労組員・久保清さんが刺殺される事件まで発生する。この争議は大学生たちへも飛び火した。彼らは炭鉱労働者と同じくヘルメットに頬かむり、手には幟か棒杙といういで立ちで参加。彼ら全学連は同様のスタイルで安保闘争に繰り出し、以後「闘士ファッション」として定着する。

三池闘争は三五年一〇月末、中労委の斡旋によって一応終結した。

「少しでも長く操業を」

平成八年九月、三井三池鉱業所を訪問する。所内は静まり返って、人の気配がまったく感じられない。爆発のあった三川坑口の建物の壁にはところどころヒビが入り廃墟の雰囲気さえ漂っている。それでも従業員は約一二〇〇人。年間一三五万㌧を採掘している。

「国内需要は一億二〇〇〇万㌧もあるが、大部分は安い海外炭でまかなわれる。労使とも少しでも長く操業を、と願っていますが、先行きは厳しい」(三井石炭鉱業総務課)

こうした現場の願いもむなしく、ついに三井三池鉱業所は、平成九年三月三〇日に閉山することが決定した。

朝日新聞社

▲坑内からの爆風で破壊された三川坑第一斜坑入り口付近。

“オートバイ王国”日本に鈴鹿が燃えた ホンダ、スズキ、ヤマハが全階級制覇!

▲昭和38年11月10日、鈴鹿サーキットでのオートバイ世界選手権で、50cc、125cc、250cc、350ccの全階級で、ホンダ・スズキ・ヤマハが3位までを独占。「月刊オートバイ」提供

戦後のモータリゼーションはオートバイで幕を開けたが、早くも一九五〇年代後半にはモータースポーツ熱が高まっていた。そしてこの年一一月、鈴鹿サーキットで国内初の世界選手権が開催された。国産車の実力を目のあたりにしたファンの熱狂の渦が場内を包みこんだ──。

“レース=走る実験室”が育てたオートバイ技術

昭和三八年一一月一〇日、その前年に完成した三重県・鈴鹿サーキットへ一五万人の観客が押し寄せた。この年のオートバイ世界選手権の最後を飾る第一二戦。日本で行われる最初のグランプリだった。世界の一流選手が最速のマシンを駆って繰り広げるレースをライブで見られる興奮に、ファンは胸を高鳴らせた。

このシーズンのタイトル争いは、一部

▶二五〇ccクラスの表彰式。中央が一位のJ・レッドマン(ホンダ)、左が二位の伊藤史朗(ヤマハ)。「月刊オートバイ」提供

をのぞいて最終戦の〝鈴鹿〟にもつれこんでいた。それだけに熱戦が期待された。

「なかでも二五〇ccレースは史上に残る名レースとして有名だ。ホンダRC164に乗るJ・レッドマンとヤマハRD56の伊藤史朗、F・リードが、スタートと同時に激戦を展開するからだ。毎周のように順位が入れ替わるデッドヒートには息をのんだ。まして、そのうちのひとりは日本の伊藤ではないか。全コースにわたる熱いバトルに、鈴鹿のスタンドは総立ちになった」（『鈴鹿サーキットモータースポーツ30年の軌跡』）

オートバイ王国・日本が、まさに日本人に直結した瞬間だった。

日本のオートバイ産業は、昭和二五年の朝鮮戦争による特需景気で生産量を飛躍的に増大させた。新規参入が相次ぎ、それまで数社だったのが、二七年には総計一三三社もが乱立する活況を呈した。

しかし、昭和二八年に停戦協定が成立すると、景気は一気にしぼんだ。ウケに入っていた二輪車業界の打撃は大きかった。「続々と生まれた多数のメーカーは、有力メーカーの技術力、販売力の前に力及ばず、数年の間に転業、廃業という経過をたどっていった」（日本自動車工業会編『モーターサイクルの日本史』）

この時期、日本のオートバイの品質は急速に向上していた。モータースポーツとして国内で盛んに行われるようになったバイクレースが促進剤になった。有力メーカーは、自社製品の性能を宣伝するためレースに力を注いだ。この中で勝利をおさめて成長したのが、現在に残るオートバイメーカー、ホンダやスズキ、ヤマハだった。

▼この頃、人気を集めたオートバイ
●ホンダドリーム・スーパースポーツCB72。排気量250cc。昭和35年発売以来7年間ベストセラーを続ける。

本田技研工業提供

▲昭和36年9月、技術研究所での本田宗一郎社長。時間さえあれば、試作室、設計室に入りこんでいた。写真のオートバイは、英国のマン島レースで1位をとったもの。 野上透

▼オートバイ世界選手権第12戦が行われた鈴鹿サーキットは、多くの若者でふくれあがった。

「月刊オートバイ」提供

一〇年のギャップを承知でホンダは世界征服に挑戦

昭和二九年三月、本田技研工業社長の本田宗一郎は、何の前ぶれもなく、社員に対し、「マン島のTTレースに出場し優勝する」と、とんでもない宣言をした。

その中で、本田は「絶対の自信を持てる生産態勢も完備した今、まさに好機至る！」とし、「日本の機械工業の真価を問い、全世界に誇示する」と、述べている。

TTレースは当時、世界で最も権威のあるオートバイレースで、各国のトップメーカーが、しのぎを削る場であった。

一方、日本の技術は世界に比べて一〇年の遅れとされていた。〝アメリカがくしゃみをすれば日本がカゼをひく〟時代、安定成長には輸出しかない。外国よりも優れたものを作り、それを実証する――本田の目はこの時、すでに世界市場を見ていたのだ。

本田は翌年、このレースを視察する。「マン島TTレースを見に行って度肝を抜かれた。理由は、うちのドリーム（二五〇cc）が一三馬力しか出ていないのに、NSU（西ドイツ）が三六馬力も出していることだった。これには参った」（秋鹿方彦監修『グランプリレース』）

輸出台数を押し上げた世界選手権での連戦連勝

念願のマン島TTレース初出場は昭和三四年。出場宣言から五年がすぎていた。成績は、一二五ccで六位、七位、八位。チームメーカー賞まで獲得した。この快挙は、日本製バイクの生産技術、品質管理の優秀さを世界に印象づけた。

これに刺激されたスズキが翌年、ヤマハは翌々年にマン島TTレースへ参戦。ヤマハが加わった三六年に、ホンダは一二五ccと二五〇ccでついに優勝を飾る。この年の世界選手権でも同じ二クラスでメーカーチャンピオンに輝いた。

こうした好成績を支えたのは独自のアイデアと技術で高速回転・高出力を追求した技術陣であった。その苦闘ははかりしれない。設計図を描き、現物化し、測定設備さえ不十分な中で昼夜を問わずテストが続けられた。試作中のエンジンを前に、睡眠不足の技術者がいつの間にか眠りこんでしまったこともあったという。

その結果、後にホンダ製エンジンの代名詞となるDOHC四バルブ方式、この時代の最先端をいくマルチシリンダー、それまでの常識を打ち破った上下分割式のクランクケースなどが生まれた。

昭和三七年以降、日本三大メーカーによる各国グランプリでの連戦連勝が始まる。年間生産台数は三五年に一〇〇万台を突破して世界一になっていたが、レース結果は年々、輸出を増大させた。

そして、ニュースとして国産オートバイの優秀さを知っていた日本人が、その圧倒ぶりを自分たちの目で確かめる日が来る。それが三八年十一月の〝鈴鹿〟だった。五〇cc、一二五cc、二五〇cc、三五〇ccの四クラスとも、一～三位を国内メーカーが独占。年間メーカーチャンピオンは、五〇ccと一二五ccでスズキ、二五〇ccと三五〇ccでホンダが獲得した。まさに完勝である。

世界トップのオートバイレースは、日本人にモータースポーツの迫力と魅力を十二分に伝えた。それは、後のF1ブームに引き継がれていく。

〝オートバイ王国〟日本に鈴鹿が燃えた ホンダ、スズキ、ヤマハが全階級制覇！

国産二輪車の生産台数と輸出台数

●ホンダドリームCB450。排気量444cc。昭和40年発売。日本を代表する大型オートバイとなった。

本田技研工業提供

●スズキセルペット80K10型。排気量52cc。昭和37年発売。125cc並みの性能を実現し、5年間で52万台販売。

スズキ提供

●スズキ250T20型。排気量250cc。昭和40年発売。500cc車に匹敵する性能で、アメリカで大人気となった。

スズキ提供

フォト＋日録で再現する365日

▶**幸浦事件、3被告の無罪確定(7月9日)**3人は昭和23年に静岡県幸浦町で起きた一家4人殺害事件の犯人とされ、1審、2審とも死刑判決を受けた。しかし、5度目の判決で、15年目にしてやっと無罪を勝ち取った。

共同通信社

◀**キーラー事件に幕(7月25日)**6月にプロヒューモ英陸相が辞任、機密漏洩疑惑へと発展した。この日愛人のキーラー(写真)が証言、彼女を陸相に紹介した整骨医が31日、管理売春罪で有罪となり幕を閉じた。

WWP

▲**建設相・河野一郎宅、焼き討ち(7月15日)**右翼の野村秋介ら2人が、神奈川県平塚の邸宅に侵入し放火、全焼させた。自民党の腐敗への警告が動機という。

共同通信社

読売新聞社

▲**日本初の高速道路「名神」開通(7月15日)**阪神と中京を結ぶ189.3キロのうち、33年に着工した尼崎市と滋賀県栗東町間71.4キロが開通。写真は開通式を祝う河野建設相。全線開通は40年だった。

共同通信社

◀**ケネディ教書で株価大暴落(7月19日)**米大統領が米国製品の優先買い付けなどを内容とするドル防衛策を議会に提出。その影響で東京証券取引所は、ダウ64円安の開所以来の下げを記録した。

▼**池袋の西武百貨店で火災(8月22日)**7階食堂付近から出火、約7時間にわたって燃え続け、7~8階を焼失、定休日だったが店員など7人が死亡、23人が負傷した。

読売新聞社

昭和38年7月

1(月)●六大都市で長時間路上駐車に罰則適用を開始。●海運再建二法公布。大規模な企業再編を促進。
2(火)●閣議、食糧不足の韓国へ米と麦の贈与を決定。●映画「武士道残酷物語」(監督・今井正)、ベルリン国際映画祭でグランプリを受賞する。
3(水)●勤労者の収入は前年比一二%増と総理府調査。
4(木)●郵政省、記念切手の発行数を三〇〇万枚増に。
5(金)●国際捕鯨委、南極海捕獲枠決定。日本は四一%。●米国映画「鳥」(監督・ヒッチコック)封切。
6(土)●梓みちよ、NHKテレビ「夢であいましょう」で「こんにちは赤ちゃん」を歌いデビュー。
7(日)●国際電電、米通信衛星の電波の捕捉に成功。
8(月)●住居表示審議会、混乱解消のためとして街区方式の新住居表示基準を、自治相に答申する。●防衛庁、国産空対空ミサイル試射成功と発表。
9(火)●最高裁、幸浦事件(23年)で検察側上告を棄却。
10(水)●渥美半島立馬岬のケシ群生地が焼き払われる。
11(木)●老人福祉法が公布される。
12(金)●政府、生存者叙勲の全面復活を決める。●閣議、新産業都市一三ヵ所の指定を決定。
13(土)●家電と偽り石炭殻輸出の貿易商を国際手配。
14(日)●大分県で地元漁民と密漁者が乱闘。五人負傷。
15(月)●名神高速道路栗東―尼崎間開通。初の高速道。●平塚市の河野建設相宅に右翼が放火、全焼。
16(火)●芦ノ湖で白鳥を捕獲し食べた三人逮捕される。
17(水)●ダブリンの技能五輪で日本は金メダル一〇個。
18(木)●宮沢経済企画庁長官、大阪・神戸のタクシー値上げ許可の撤回を運輸省に申し入れる。
19(金)●米ドル防衛策強化で東証株価六四円安の暴落。
20(土)●五日から開催の中ソ共産党会談が決裂。
21(日)●北海道で、日本では二〇世紀最後の皆既日食。
22(月)●茨城県出島村に日本初の「農村モデル図書館」。
23(火)●国鉄新幹線総局、工事費不足の責で局へ降格。
24(水)●福知山署、一一〇番通報の内容を他言した交換手を公衆電気通信法違反容疑で取り調べる。
25(木)●日教組の松井恒子、総評大会初の女性議長に。●東電の設備出力が六〇〇万kw超え世界三位に。
26(金)●OECD理事会、日本の加盟を承認する。
27(土)●福山港でタグボート転覆。作業員一〇人死亡。
28(日)●東京で初の河川浄化装置(電解処理)を設置。
29(月)●東京湾総合開発協、横断道の建設促進を決議。●東京地裁、刑務所での丸刈り強制、合憲の判決。
30(火)●通産省、炭価を三三年度比で一二〇〇円減に。
31(水)●インドネシア国営百貨店幹部、松坂屋で研修。

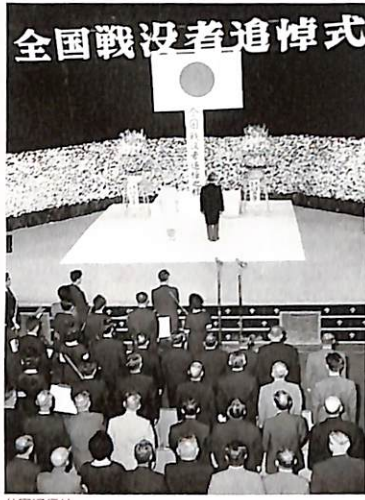
証言・あの日この日
野上彌生子(78)

11月2日(土) 〈ラヂオが南ヴェトナムクデターの成功を報ずる。ゴ・ジン・ジェム大統領と弟の二人は捕へられて自殺……。モスクワ辺の見方としてもすべてが米国の御膳立ちとされてゐるが、それに間違ひない。いひなりになるうちは使つて、自由にあやつられなくなるとこの始末はなんとしてもあまりに露骨で、これで自由主義陣営なるものゝ親分として、世上の人心を承服させて行けるものか。ケネディなどといふ人間も、米がかうした行き方をする以上はカポネと変はりはなからう〉(『野上彌生子日記』)

80歳近くなっても野上彌生子の社会への関心は少しも衰えない。ケネディ暗殺の際には、「南ヴェトナムの大統領兄弟をクデターで死なせたのも、結局彼が殺したわけ。それが二ケ月とたたずに自らの運命となつた」という感想をもらす。 (坪内祐三)

▼**第1回戦没者追悼式(8月15日)**18回目の終戦記念日のこの日、東京の日比谷公会堂で国の行事として初めて行われ、天皇・皇后も列席した。追悼対象者は日中戦争開始以降の戦没者310万人とした。

共同通信社

TIME LIFE/PPS

▼**沖縄で離島航路の定期貨客船「みどり丸」が沈没(8月17日)**那覇市西方海上で突風と横波で転覆。死者・行方不明112人におよんだ。写真は救助を求める乗客。

沖縄タイムス

▼**吉永小百合宅、襲われる(8月9日)**犯人は熱狂的なファンで、彼女に自分の名を入れ墨したかったと自供。警官を拳銃で撃ち重傷を負わせた。

毎日新聞社

▲**ワシントンで仕事と差別撤廃を求める大行進(8月28日)**記念塔広場に10万人が集合、リンカーン記念堂に向け公民権運動を象徴する「勝利を我らに」を歌いながら進んだ。

中国新聞社

▲**原水禁運動分裂(8月5日)**社会党と総評が第9回原水爆禁止世界大会をボイコット。共産党系と完全に袂を分かち、昭和40年には新たに原水爆禁止日本国民会議(原水禁)を結成した。

昭和38年8月

1(木)●東証一部の取引単位が一〇〇〇株へ倍増。
2(金)●利子平衡税に関する日米共同コミュニケ発表。
3(土)●男六六歳、女七一歳と平均寿命を厚生省発表。
4(日)●五輪選手が民間スキー場の開場式で模範演技。「アマ精神に反する」と批判受ける。
5(月)●社会党・総評、原水禁世界大会不参加を決定。●米英ソ、部分的核実験停止条約に調印。
6(火)●広島平和公園で峠三吉の詩碑除幕式。
7(水)●橿原市で、青銅製容器など中国製の副葬品を日本で初めて発掘。●東京オリンピック組織委、一〇三ヵ国に大会への招待状を発送する。
8(木)●東京の江東ゼロメートル地帯で防潮堤が完成。
9(金)●台風九号で九州・四国に豪雨。一三人死亡。
10(土)●東京都多摩村で「満州開拓殉難碑」除幕式。
11(日)●男性化粧品が前年比五割増売り上げと新聞に。
12(月)●東京都、不公正取引解消のため、芝浦に食肉市場を新設し卸売一元化の方針を業者に通告。
13(火)●甲子園で首里高校が沖縄代表として初勝利。
14(水)●米英ソ駐在の日本大使、部分核停条約に調印。
15(木)●初の政府主催の全国戦没者追悼式が開かれる。●韓国の孤児院園長田内千鶴子に韓国文化勲章。
16(金)●東京の犬のホテルがお盆で満員、と新聞に。
17(土)●日本原子力船開発事業団が発足。●八丈富士に羽田行き旅客機衝突。一九人死亡。●那覇市沖で貨客船沈没。死亡・不明一一二人。
18(日)●一四日以来の豪雨のため熊本で六千余戸浸水。
19(月)●渋谷に「団地用」祭壇扱う葬儀社開業と新聞に。
20(火)●倉敷レイヨンの対中プラント輸出を認可。●日本テレビ「婦人ニュース」が二〇〇〇回に。
21(水)●南ベトナム全土に戒厳令。仏教徒の弾圧激化。
22(木)●日本原研東海研究所で原発実験炉が臨界に。●池袋の西武百貨店で火災。七、八階焼失。
23(金)●帝国ホテルで五輪村の食事試食会を開く。
24(土)●東京でアジア初の世界連邦世界大会を開催。
25(日)●鬼怒川発電所工事現場で土砂崩れ。三人死亡。
26(月)●内紛で分裂した群馬交響楽団が活動を再開。
27(火)●閣議、新官庁都市候補地を筑波山麓で了承。
28(水)●反人種差別のワシントン大行進が行われる。
29(木)●都内公衆浴場が入浴料アップを求めスト突入。
30(金)●国土地理院、地図の基本縮尺率を二万五〇〇〇分の一に決める。●米ソ間にホットラインが開通。
31(土)●合成繊維・化粧品など三五品目の輸入自由化。

◀**地下鉄車内に時限爆弾（9月5日）**地下鉄京橋駅に停車直後、突然爆発、乗客10人が重軽傷を負った。警視庁は前年末から都内を騒がせている「草加次郎」と名乗るものの犯行と推定。写真は警視庁の現場検証。

朝日新聞社

▼**サミー・デービス・ジュニアが来日（9月23日）**東京・サンケイホールで行われたショーでは、歌、踊り、各種の楽器演奏のほかに、フランク・シナトラ、ナット・キング・コールのものまねで観衆をわかせた。

朝日新聞社

▲**松川事件、全員に無罪判決（9月12日）**松川事件に対する最高裁の再上告審判決。1、2審は17人が死刑を含む有罪だったが、最高裁が差し戻し、高裁の無罪判決に検察が上告していた。写真は支援者に祝福される本田被告の妻しのぶ。

朝日新聞社

▶**125人が死傷、踏切で二重衝突（9月20日）**福岡市の鹿児島本線の踏切内で故障したダンプカーに、上り電車が衝突して横転、そこへ下りのディーゼルカーが突っこんだ事故。車両同士が食いこんで救助は難航した。

◀**「MU2」お目見え（9月14日）**新三菱重工が設計・製作した、国産初の小型ターボプロップ機が名古屋空港を飛び立ち、25分間初飛行した。YS11に次ぐ第2の国産機。1機約30万ドルでアメリカに輸出された。

朝日新聞社　朝日新聞社

昭和38年9月

1（日）●保険医療費、地域格差が廃止され全国一律に。●横須賀と佐世保で各六万人が原潜阻止集会。●国鉄、ATS（列車自動停止装置）の使用開始。
2（月）●岐阜県に全国初の自主局郡上八幡テレビ開局。
3（火）●警察庁、広域暴力団への捜査体制強化を決定。
4（水）●八木秀次ら憲法調査会委員一八名が、自主憲法制定の意見書を高柳賢三会長に提出。
5（木）●地下鉄京橋駅で時限爆弾爆発（草加次郎事件）。●米NBCで「鉄腕アトム」の放映が始まる。
6（金）●奈良南都六大寺、文化財出品料の徴収を決定。
7（土）●青森市で国政に関する公聴会（一日内閣）開催。
8（日）●京都向日町競輪場で客が八百長と騒ぎ放火。
9（月）●物価問題懇談会（座長・中山伊知郎）初会合。
10（火）●宇部市で第一回全国野外彫刻コンクール展。
11（水）●東上線利用の乗客が結成した車内道徳普及会、池袋駅で暴力追放のビラ一万枚を配布する。
12（木）●最高裁が松川事件の検察上告棄却、無罪確定。●日清食品、大和通商との即席ラーメン元祖争いに和解、と発表。
13（金）●大逆事件の再審請求審理で坂本清馬を尋問。
14（土）●東京の航空法国際会議（8月20日〜）閉会。
15（日）●奈良国立博物館、中宮寺旧寺跡で、法隆寺若草伽藍以前の建立と推定される塔跡を発掘。
16（月）●都内の値段不当表示が八四八例と公取委発表。
17（火）●東京地裁、下筌ダム用地収用違法訴訟を棄却。
18（水）●文部省、体育施設整備五ヵ年計画を発表。●海老原博幸、ボクシング世界フライ級王者に。
19（木）●国家公安委、一八万人への警官増員計画了承。●全国の玩具業者が玩具のPRセンターを設立。●山下汽船と新日本汽船が対等合併を発表。
20（金）●二七都府県で初の夜間一斉交通取締りを実施。●官公庁での国産品愛用促進を閣議決定。
21（土）●自衛隊教育調査会、防衛大の軍事教育強化策などを防衛庁長官に提出。
22（日）●心臓病の子どもを守る会、東京で準備会開催。
23（月）●シンガポールで港湾労働者が日本船荷役拒否。
24（火）●BBC接種に新方式の結核予防週間始まる。
25（水）●神戸市のゴム工場から出火。一六人焼死。
26（木）●トヨタ、二交替制で月産三万台体制にと発表。
27（金）●世銀からの東名高速道建設借款協定に調印。
28（土）●松本晶行、司法試験に聾唖者として初の合格。●バナナの輸入量がふえ、価格が急落と新聞に。
29（日）●乗鞍岳へ通じる長野県側の自動車道が開通。
30（月）●信越本線碓氷峠のアプト式線路が廃止される。

朝日新聞社

朝日新聞社

▲**北京で日本工業展開催（10月5日）**10万点、17億円の機械類が並んだ会場は、ケガ人が出るほどの大盛況。テレビや電池で動くおもちゃ、万能耕耘機、時計などに人気が集まった。

◀**依田郁子、好走（10月12日）**プレオリンピック大会の女子80メートルハードル準決勝で、10秒6のこの年世界最高タイム（日本新）をマーク（写真）。決勝も10秒7で優勝を飾った。

読売新聞社

▲**柏戸、涙の全勝優勝（9月22日）**秋場所千秋楽で大鵬を破り、16場所ぶり2度目の賜杯を手にした。4場所休場後だけに、インタビューも感激で言葉にならなかった。

▼**日生劇場、ベルリン・ドイツ・オペラで開場（10月20日）**カール・ベームが指揮する、ベートーベンの「フィデリオ」が上演され、16回ものカーテン・コールが続いた。

▶**大阪・四天王寺で落慶大法要（10月15日）**昭和9年の台風や20年の空襲で被害を受けた伽藍は、コンクリート造りに建て替えられ、5日間の伽藍復興記念大法要が営まれた。

松本徳彦

共同通信社

昭和38年10月

1（火）●都庁に導入された電子計算機の始動式を挙行。●日本相撲協会、秋場所の大鵬・柏戸戦を八百長と書いた石原慎太郎を東京地検に告訴。
2（水）●賃金上昇で納税人口が六八%に増加と国税庁。
3（木）●東京でユネスコの第一回アジア教育計画会議。
4（金）●犯罪捜査の電話逆探知は合憲、と閣議決定。●郵政省、放送番組懇談会開く（以後隔月開催）。
5（土）●日本初の対空ミサイル搭載の護衛艦が進水。●北京で日本工業展覧会が開幕する。
6（日）●各業界で五五歳定年延長の動き、と新聞に。
7（月）●来日中の中国視察団通訳・周鴻慶、ソ連大使館に保護を要請する（8日、警視庁に移送）。
8（火）●東京五輪組織委、入場券の応募方法を発表。
9（水）●台湾、プレ五輪で国名を「中華民国」にと要請。
10（木）●慶大と順天堂大に日本初のアイバンク開業。●フジテレビ「三匹の侍」放映を開始。
11（金）●大阪外大・本田平八郎、初の英訳『万葉集』完成。
12（土）●上野動物園、不忍池の鴨の連続死は工場汚水が原因と、都に排水口移転の陳情を決定。
13（日）●プレ五輪体操に関係者優先で前売り客入れず。
14（月）●産炭地域復興懇談会、東京で設立総会を開く。
15（火）●横須賀市の国立久里浜病院に、初のアルコール中毒専門施設が開設される。
16（水）●選挙制度審議会、衆院の定数一八増案を答申。
17（木）●最高裁、白鳥事件の上告を棄却し有罪確定。●南海の野村克也、五二号本塁打の日本記録。
18（金）●創価学会の民主音楽協会（民音）が発足する。
19（土）●書店の全国連、「有害雑誌」の販売拒否を決定。
20（日）●日生劇場が歌劇「フィデリオ」で柿落とし。
21（月）●新宿・歌舞伎町に自販機の「銘酒コーナー」。
22（火）●前年度の生理休暇請求は二二・五%と新聞に。
23（水）●鉄鋼連盟、ソ連の鋳造技術導入契約に調印。●水泳連盟、ジャカルタの新興国スポーツ大会（11月）への参加者は除名すると発表。
24（木）●交通対策本部、大都市の時差通勤協力を要請。
25（金）●徳島地裁、森永砒素ミルク事件に無罪判決。
26（土）●日本原研東海研究所で初の原子力発電に成功。
27（日）●宮城県作並温泉でホテル火災。三棟全焼。
28（月）●新三菱重工・三菱造船・三菱日本重工が合併。
29（火）●日銀、ニューヨーク連邦準備銀行と一億五〇〇〇万ドルのスワップ協定に調印する。●大阪の梅田地下街がオープン。
30（水）●日本文芸社、悪書追放運動を受け四誌を廃刊。
31（木）●トヨタ自動車、月産三万台突破記念式を挙行。

◀13年ぶりに新千円札（11月1日）にせ千円札が大量に出回ったため、日銀は急拠新札に変更。人物を伊藤博文に変え、図柄も精密にした。にせ札による新札の発行は初めて。

▼南ベトナムでクーデタ勃発（11月1日）ドン・バン・ミンら軍部は、新たな親米政権を樹立した。写真は、大統領の実弟ゴ・ジン・ヌーの銅像の首を切り取り熱狂する市民。

朝日新聞社

WWP

▲鶴見と新子安間で二重衝突（11月9日）東海道線の貨物列車が脱線。現場へさしかかって徐行していた横須賀線下り電車へ、貨車に触れた上り電車が衝突し、死者161人、重軽傷者120人を出す、戦後2番目の大事故となった。

▼故ケネディ米大統領を悼む（11月26日）米大使館による弔祭式が、東京・四谷の聖イグナチオ教会で行われ、皇太子夫妻が参列。礼拝堂には聖歌隊が歌う「レクイエム」が流れた。写真左はライシャワー駐日米大使。

朝日新聞社

▲神戸港のシンボル、ポートタワー（11月21日）国内航路が行き交う中突堤に完成。高さは108メートル、展望台には回転食堂もあり、4月25日に開館した神戸国際港湾博物館とも結ばれた。

神戸港振興協会提供

◀2人の元首相落選（11月21日）第30回衆議院総選挙で石橋湛山（写真）、片山哲の首相経験者や、加藤勘十などベテラン議員が相次いで落選する中、若手の進出が目立ち、新旧交替の時代を迎えたと言われた。

共同通信社

昭和38年11月

1（金）●大蔵省、にせ札対策で新千円札を発行。
●南ベトナムで軍事クーデタ（4日臨時政府）。

2（土）●日本英語検定協会、第一回合格者に証書授与。

3（日）●災害救助の赤十字飛行隊が結成式を挙行。

4（月）●東京高裁、生活保護基準をめぐる朝日訴訟で、低額でも違法ではないと国側勝訴の判決。

5（火）●郡山市で池田首相襲撃未遂の右翼青年を逮捕。
●岩手県庁第二分庁舎全焼。年金台帳など焼失。

6（水）●左官業組合が東京で初の「家つくり競技」。

7（木）●防衛庁統幕議長が「国防省昇格が必要」と発言。

8（金）●ＩＬＯ、八七号条約問題で対日調査団派遣へ。

9（土）●三井三池鉱業所三川坑で爆発。四五八人死亡。
●東海道本線の鶴見で二重衝突。一六一人死亡。

10（日）●鈴鹿で日本初のオートバイ世界選手権開催。

11（月）●東京で東西演劇シンポジウム。二二ヵ国参加。

12（火）●秋田県八郎潟中央干拓地で排水作業が始まる。

13（水）●東京都、時価一億五〇〇〇万円の都管理地を二〇万円で払い下げる計画を追及され中止に。

14（木）●参院社労委、三池鉱事故の対策推進を決議。

15（金）●国鉄、検知装置付設など脱線事故防止策決定。

16（土）●第一回能研テスト実施。三六万人余が参加。
●神戸の王子動物園でサイの子が誕生。日本初。

17（日）●李ライン外操業の日本船を国籍不明船が臨検。

18（月）●総合政策研究会、「航空政策への提言」を発表。

19（火）●都が初の高空観測でスモッグのデータを収集。

20（水）●東京地裁、昭和女子大生への政防法反対活動による退学処分に無効判決（二審で逆転）。
●国際電電の茨城宇宙通信実験所が開所される。

21（木）●第三〇回衆院選（自民二八三、社会一四四）。
●『悪徳の栄え』は猥褻文書と控訴審で有罪判決。
●神戸ポートタワー開業。高さ一〇八㍍。

22（金）●ケネディ米大統領、ダラスで暗殺される。

23（土）●初の日米間テレビ宇宙中継実験が成功する。

24（日）●全日本バレーボールで中央大が学生初の優勝。

25（月）●三島由紀夫、「喜びの琴」を思想上の問題で上演中止した劇団文学座に、脱退を通告。

26（火）●要人テロ事件続発に警察庁が警護強化を決定。
●日銀、中小企業と大企業の生産性や賃金格差が縮小している、と調査結果を発表。

27（水）●陸自饗庭野演習場で戦車が横転。六人死傷。

28（木）●都教育庁、海外勤務者の子女などを対象に全国初の全寮制高校新設を決定。

29（金）●三七年進水の商船は日本一位と英ロイド発表。

30（土）●新宿―荻窪間の都電杉並線が廃止第一号に。

読売新聞社

▲プロレスの王者、力道山刺される（12月8日）東京・赤坂のナイトクラブで暴力団員と喧嘩になり、左下腹部を刺されて入院したが、この傷がもとで12月15日に死亡した。写真は病院へ向かう力道山。

朝日新聞社

▶国鉄と労組が乗務員を奪い合う（12月12日）13日午後7時から予定されていた動力車労組の実力行使を前に、田畑・尾久機関区では運転士と車掌の争奪戦が展開された。写真は機関車を囲み、勤務明けの乗務員の獲得でもみ合う国鉄側と組合員。

▼「こんにちは赤ちゃん」、日本レコード大賞に（12月6日）中村八大作曲、永六輔作詞によるこの歌は、初めて子を持った若い母親の感情を歌って大ヒット。19歳の新人歌手・梓みちよは一躍スターになった。写真は中村八大と中村の赤ちゃん。

朝日新聞社

▲オリンピックの整理券に徹夜の列（12月6日）東京・千駄ケ谷の国立競技場には、この日配布される陸上競技用入場券の整理券を求めて、前月29日から座りこみが始まり、5日夜には3000人に達した。

読売新聞社

▼若き橋本、西岡らが初登院（12月4日）総選挙後の特別国会の初日、議事堂中央玄関には新議員が詰めかけた。親譲りの20代トリオと呼ばれた小渕恵三（26）、西岡武夫（27）、橋本龍太郎（26）（写真右から）がやや緊張の面持ちで新しい議員バッジをつけてもらった。

昭和38年12月

1（日）●原研東海研究所の実験炉が最高出力に到達。

2（月）●大阪港でスモッグのため防波堤に観光船衝突。

3（火）●東京旅客自動車協会、東京五輪までにタクシー六〇〇〇台増車などサービス改善策を決定。

4（水）●山陽スコット、ティッシュペーパーを発売。

5（木）●東京五輪の記録速報用試作機が米国から到着。

6（金）●日本ガン治療学会が発足する。
●レコード大賞に「こんにちは赤ちゃん」決定。

7（土）●東京地裁、被爆者の原爆訴訟で投下は国際法違反と判決。国への損害賠償請求は棄却。
●長崎県から東京へ初の炭鉱離職者が集団就職。

8（日）●力道山、暴力団員に刺される（15日死亡）。

9（月）●東大鹿児島宇宙空間観測所が内之浦町に開所。

10（火）●警視庁、ボウリング場に夜一二時閉店を要望。
●東京都、五輪に向け首都美化運動強化を決定。

11（水）●千葉県富里村に新国際空港をと航空審が答申。
●東大生産研、「ラムダ2号」を打ち上げる。

12（木）●デンマークのマルガレーテ王女が来日。

13（金）●全逓の超勤拒否で滞貨一一〇万通余と郵政省。

14（土）●私立学校の借入金依存度上昇と文部省調査。

15（日）●日本野鳥の会、明治神宮内苑で探鳥会を開く。

16（月）●東京の五輪道路で初めての放射七号線が全通。
●パンアメリカンが日本初の月賦航空券を発売。

17（火）●東京・日比谷でケネディ大統領追悼国民大会。
●韓国大統領に朴正熙就任。第三共和制発足。

18（水）●一票の格差理由に衆院選の無効が提訴される。

19（木）●都清掃工場反対の男が煙突上に八四時間籠城。

20（金）●川崎汽船、飯野汽船の吸収合併契約に調印。

21（土）●首都高速道一号線（日本橋―室町間）が開通。

22（日）●多摩川に青酸化合物が流入。都は取水を停止。

23（月）●横浜で覚醒剤一億円相当密売の四一人逮捕。

24（火）●東京中央卸売市場、正月用品二三品目の価格は、前年より平均一五㌫の値上がりと発表。

25（水）●最高裁、有線放送ではレコード使用時に、製作会社名の放送が必要と新判例。

26（木）●最高裁、第一次砂川闘争（32年）で七人に有罪。

27（金）●高知県教委、「日の丸」掲揚と「君が代」斉唱の実施を県下各学校に指示。

28（土）●大蔵省、人間国宝への奨励金予算要求を承認。
●京都府の九品寺住職、本尊を借金の抵当に入れ、業務上横領容疑で逮捕される。

29（日）●文部省、三九年度の国立大新増設計画を決定。

30（月）●労組の九七㌫が企業内組合と労働省が発表。

31（火）●大阪釜ケ崎で一〇〇人が仕事を要求し投石。

戯楽多市（がらくたいち）

流行語

「一姫、二虎、三ダンプ」

経済の高度成長によって日本にも本格的なマイカー時代がやって来た。それにつれてふえたのが、一般ドライバーをぞっとさせる車で、この言葉はそのワーストスリーを表したもの。ダンプは図体（ずうたい）がでかいのをいいことに、我が物顔で街を走りまわり、好景気の中で酔っぱらい運転も激増した。それらも恐ろしかったが、もっと恐ろしいのが女性ドライバーで、車の流れを無視した自己流の運転、あまりに未熟な運転技術が男性ドライバー共通の恐怖の的となった。

「三ちゃん農業」。経済の高度成長によって農業のあり方が激変し、かあちゃん、じいちゃん、ばあちゃんの〝三ちゃん〟によって行われるようになったことを表す。この年二月、衆院予算委員会で使われて以来流行した。

「ハッスル」。この年春、アメリカでキャンプを張った阪神タイガースが持ち帰ったもので、元気いっぱいのプレーをハッスル・プレーと表現したことから広がった。俗語では娼婦の客引きなど、下品な意味もあるというので、NHKは禁止用語としたが、それを越える勢いで浸透した。

美人投票

女性が選んだ〝美しい女性〟ベストテン

女性週刊誌が女性読者を対象に美人投票を行った。その結果、

①新珠（あらたま）三千代（みちよ）　二〇四四票
②美智子妃　一九一二票
③山本富士子　一七五九票
④高峰秀子　一五二五票
⑤香川京子　一三四七票

続いて入江美樹（みき）、若尾文子（あやこ）、勅使河原霞（てしがわらかすみ）、岩下志麻、岩崎加根子（かねこ）の順だった。

（「女性自身」一一月一八日号）

朝日新聞社

▲昭和38年11月29日、大阪・梅田の地下街がオープン。

CM100年

タレント・植木等

食

大阪名物のタコ焼きが東京に進出

五月初めくらいから大阪生まれの〝タコ焼き〟が都内で売られ、人気を呼んでいる。

ウドン粉に小エビや紅ショウガなどを混ぜ、タコの足をひと切れずつ入れてピンポン玉ぐらいの大きさに焼いたもので、銀座通りやデパートの味の街などにも進出している。作っているのはほとんどが上方（かみがた）の職人。手に火ぶくれを作りながら小さなダンゴをひとつひとつ焼く作業は、気短な江戸っ子にはとてもできそうにない。

〝やっぱり食いものは大阪にかなわねえ〟

（「毎日新聞」六月三日）

データ

インドネシアの女性は日本の男がキライ？

インドネシアから戦後初めて日本に留学した二二四人が帰国した。そのうち日本女性の恋人を連れて帰るもの三〇人、女子留学生三〇人のうち日本男子を恋人にしたのはゼロだった。

（「サンケイ新聞」七月三日）

物価

ライオンの子のレンタル料は一カ月一万円

この頃、動物のレンタル屋さんが流行した。一番人気があったのはチンパンジーで、レンタル料は一ヵ月一万円。そのほかの動物では日本ザルが三〇〇〇〜五〇〇〇円、ライオンの子一万円。

犬のレンタル料は一日五〇〇円だが、保証金として犬の原価を預かるシステムで、原価はスピッツ七〇〇〇円、ポメラニアン、プードルはいずれも三万五〇〇〇円。

（「オール生活」八月号）

全国の少女がまっていた　すばらしい時代まんが！
ふりそで剣士（けんし）
梶原一騎・原作
東浦美津夫・まんが

▲この年9月、「週刊少女フレンド」で連載がスタート。

三面記事

のぞきマニアが泥棒をのぞく

【別府発】さる日の深夜、大分県別府署に一一〇番通報が入った。「もしもし、今、店に泥棒が入ろうとしています。どうしましょうか、入ってくるまで待ちますか」とのんびりした言い方。びっくりした刑事がいろいろ尋ねているうちに、泥棒の方が気配を察して逃げてしまった。

どうしてこんなことになったかというと、電話の主は海岸にあるキャバレーの従業員だが、その付近一帯は別府でも有名なアベックゾーン。毎夜アベックたちの繰り広げる愛の交歓を観察するのが近所の人々の楽しみになっている。

ただし、それにはタイミングが絶対の条件で、早くのぞいては相手に気づかれてしまうので、機が熟するまで待つのが肝心。そこで、いつものクセが出たというわけ。従業員は刑事に「習慣って恐ろしいですね」と変な弁解をしていた。

（「大分合同新聞」二月五日）

北海道で発見！　酒飲みだけにたたるキノコ

【札幌発】北海道庁衛生部に、キノコによる変わった食中毒のケースが二件報告されてきた。このキノコは和名ではホテイシメジと呼ばれているもので、植物図鑑にもちゃんと食用と記載されているし、八百屋の店頭にも並んでいる。一般には煮て食べたり、みそ汁の実にしているという。

ところが酒を飲みながらこのキノコを食べると、ひどい中毒症状を起こすのである。旭川市の患者は酒を一合ほどしか飲まなかったのに、たちまち全身が充血し、頭痛や吐き気に襲われた。衛生部では販売をやめさせようと考えたが、酒と一緒に食べるといけないだけなので、有毒と決めてしまうわけにもいかない。やむなく「酒のサカナにはするな」と警告するとともに、毒性の解明を急ぐことになった。

（「北海道新聞」九月一七日）

▶アマチュアバンドが急増した三八年、アコースティック・ギター「ホタカ」が登場。

モリダイラ楽器提供

〝昭和の巌窟王〟に合格祈願の握手攻め

【栃木発】五〇年間無罪を叫び続け、無罪を勝ち取った〝昭和の巌窟王〟吉田石松老（八三）が三月初め、「バンザイ！」の大歓声に迎えられ、両手を高く上げて東北本線小山駅に降り立った。握手攻めにあって、シワだらけの手がはれ上がってしまったが、握手を求めたのは中・高生が圧倒的に多かった。「ガンクツ王の手を握ると試験に合格する」という噂が流れたため、受験生が殺到したのだという。

（「週刊新潮」三月一八日号）

研究

若い愛人と旅館に入る際の興奮が、腹上死への第一歩

『日本法医学雑誌』昭和三八年五・六号に「腹上死の統計的研究」という論文が発表された。腹上死はどういう環境や条件下で起こるかという研究で、報告者は東京都監察医務院の上野正彦氏。同医務院が昭和三四年一月から三八年五月までに扱った三四例の腹上死を分析したものである。

「第四例　大工、三〇歳。新婚初性交の一時間後、自宅において急死。第九例　会社役員、六五歳。四九歳の愛人と旅館で性交中、急死。第一九例　OL、……歳。旅館で愛人と性交直後急死、月経期だった」

統計によると男性……八人に対して女性六人。愛人やホステスなどとの浮気が……例で、本妻が七例。男性の平均年齢は五……歳で、その時相手をしていた女性の平均は……二歳と、二〇歳の開きがあった。これらのことから上野氏は、男性の肉体的条件に加え、「年若い愛人と旅館に入るという興奮が性交死を準備するようだ」と述べている。

この年の初もの

日通が始めたゴルフバッグの宅配料金は、二六〇円

● **香水の調合屋**　あなただけのセクシュアルな匂いを作りますという新商売。

● **花見の予約屋**　桜見物にいい場所をあらかじめ確保しておくもので、五〇人までなら予約料が二〇〇〇円（ムシロつき！）。中小企業の間で大好評、予約屋は都内だけで三〇人を超えた。

共同通信社

▲「技能オリンピック」で金メダルの白石勝美さん。

美女倶楽部　伴田良輔・選

▲女性も御輿をかつぐようになった。伝統的な東京・浅草の三社祭には百基を越える御輿が出て、浅草歓楽街の枠筋の姐さんたちも元気よく御輿をかついで、お色気をまき散らした。撮影・田沼武能

無罪判決の瞬間「バンザイ」と叫んだ！
“昭和の巌窟王”吉田石松翁、50年の闘い

▲名古屋高裁の被告席についた吉田石松さんは、顔をあげ正面の裁判官席をじっと見つめ続けて、「被告人は無罪」の判決を受けた後も、その姿勢を崩さなかった。　共同通信社

▶3月1日、愛知県愛知郡長久手村にある被害者・戸田亀太郎さんの墓を訪れて。　朝日新聞社

無実の罪で二二年間投獄され、出所後も潔白を主張し続けた吉田石松さんが、ようやく無罪を勝ち取ったのは、事件後五〇年目のこの年二月のことだった。マスコミは彼をデュマの小説『モンテ・クリスト伯』になぞらえ、「昭和の巌窟王」と呼んだ。これ以降、再審請求で無罪判決を得るケースが相次いだ。

三人の裁判官は、被告人席に頭を下げて詫びた

昭和三八年二月二八日、名古屋高等裁判所には、早朝から、多数の報道陣が詰めかけていた。

午前九時半すぎ、吉田石松さん（八三）が弁護士らに付き添われて入廷。

一〇時ちょうど、三人の裁判官が入廷し、報道陣に三分間の撮影が許されると、一斉にたかれたフラッシュの光が、被告席の吉田さんの姿を浮かび上がらせた。

一〇時四分、小林登一裁判長が落ち着いた声で「これより判決を言い渡します」と、判決書を手に取った。廷内が息を殺した瞬間、運命の判決が下された。

「被告人は無罪」

その後、判決理由の長い朗読が続き、裁判長は、最後にこう締めくくった。

「被告人、いな、ここでは吉田翁と呼ぼう。我々の先輩が翁に対して犯した過誤をひたすら陳謝するとともに、実に半世紀の久しきにわたり、よくあらゆる迫害に耐え、自己の無実を叫び続けてきたその崇高なる態度、その不撓不屈のまさに驚嘆すべきたぐいなき精神力、生命力に深甚なる敬意を表しつつ翁の余生に幸多からんことを祈念する次第である」

裁判長が読み終えると、三人の裁判官は立ち上がり、被告人席の吉田さんに頭を下げた。法廷ではきわめて異例のことで、傍聴人らを驚かせた。

裁判官の退廷後、吉田さんは裁判官席を拝むように手を合わせると、傍聴席を振り向き「バンザイ」と大声で叫び、手を上げた。無実の罪で逮捕されてから五〇年、心からの喜びの声だった。

死刑、無期、服役二二年、五回の再審請求を経て

吉田さんが、勤め先の愛知県西春日井郡杉村（現・名古屋市北区）のガラス工場で逮捕されたのは、大正二年八月一五日のことだった。前々日の一三日午後九時四〇分頃、マユを運んで帰る途中の戸田亀太郎さん（三二）が、愛知県愛知郡千種町（現・名古屋市千種区）で、鈍器で頭を殴られて殺害され、一円二〇銭入りの財布を奪われた。この事件で翌一四日に逮捕された二人の男が、「主犯は吉田石松（当時三四歳）だ」と自供したからである。

吉田さんは、身に覚えがないこと、と否認したが、大正三年四月一五日、一審の名古屋地裁で死刑判決（“共犯”の二人は無期懲役）が下されてしまう。吉田さんだけが控訴したが、同年七月二二日、名古屋控訴院で無期懲役を言い渡され、同年一一月四日、上告棄却が確定した。

その後、小倉刑務所、網走刑務所、秋田刑務所などで二二年間服役し、昭和一〇年三月二一日に仮釈放で出所した。

吉田さんは獄中でも無罪を訴え、在監中の大正七年と同一一年に再審請求したが、二回とも棄却されている。

吉田さんは出所すると、再審へ向けて協力者を捜した。幸運にも司法記者クラブで「都新聞」の青山与平記者など、五人の青年記者と知り合うことができた。五人は吉田さんの無罪を確信して奔走。すでに出所していた二人の“共犯”の居所を突きとめ、「嘘を言ってすまぬ」という詫び状を取ったのである。この詫び状をもとに、昭和一二年に三度目の再審請求を出したが、同一九年に却下されてしまう。「詫び状は脅して書かせたもので、信憑性が低い」というのが理由だった。

戦後、妻の実家がある栃木県下都賀郡美田村に移り、近所の人に無実を訴えて回った。心を動かされた地元住民ら約六〇〇人の署名が実を結び、東京法務局で、宿願の“共犯者”との対決が実現した。しかし、“共犯者”は言を左右にして詫び状

の内容を認めず、うやむやのままに終わってしまった。

昭和三二年の第四回再審請求も却下されたが、その直後、第二の幸運が訪れた。

ジュウタンをつかんで懇願する姿にうたれて

法務大臣に直訴しようと法務省を訪ねた時のこと。面会の約束がないと追い返そうとする守衛に、吉田さんは、床のジュウタンをつかんで「お願いだ」と懇願した。そこに偶然通りかかった検事の安倍治夫氏が吉田さんに同情し、日弁連(日本弁護士連合会)人権擁護委員会へ再審請求の協力を頼みこんだ。これが再審開始決定に結びついたのである。

無罪判決後、吉田さんは「(逮捕・投獄された)あの頃は神さまはおらんと思ったが、今日はいると思った。今までたくさんの人たちがわしを助けてくれたが、この人たちはみんな神さまの化身だと思うとる」と、喜びを語っている。

吉田さんが逮捕されて仮釈放まで七八八九日。刑事補償請求は、当時の規定の最高額である一日四〇〇円が認められ、三一五万五六〇〇円が支払われた。

吉田さんは、栃木県小山市内の自宅で、五〇年ぶりに、心静かな日々をすごしたが、同年一二月一日、老衰で亡くなった。一緒に暮らしていた、養女の新井すみ子さんが、当時を振り返って言う。

「無罪判決を得て、父は気が抜けたのか、腰が立たなくなって、外出せず、全国から寄せられる手紙に目を通す毎日でした。一〇月頃から床につき、亡くなった日、お見舞いに来てくださった方に『有り難うございます』と言って、それが最後の言葉になりました。本当に大往生でした」

吉田さんの無罪は、日弁連が再審事件に本格的に取り組むきっかけでもあった。日弁連では、再審が「狭き門」なのは、法的手続きの不備が原因だと指摘している。具体的には、再審開始の条件が「(無罪を言い渡すべき)明らかな証拠を新たに発見した時」(刑事訴訟法四三五条六号)では厳しすぎるとして、「(無罪を言い渡すべき)事実誤認があると疑うに足りる証拠を新たに発見した時」と改正するよう求めている。

なお、日弁連が支援した再審事件では、吉田さんの事件以降、一件の無罪が確定し、平成八年一一月現在、支援中のものが五件、調査中の事件が五件ある。

▼3月2日、美田村の実家に帰った石松翁は、二人のお孫さんに手をひかれて畦道へ。

朝日新聞社

外から見たNIPPON

エズラ・ヴォーゲルが見た高度成長前夜のサラリーマン

――佐伯 修

▲近年は、中国、韓国の経済成長が関心の的に。

後年、『ジャパン・アズ・ナンバーワン――アメリカへの教訓』で一世を風靡するアメリカの社会学者、エズラ・ヴォーゲル(一九三〇年生まれ)は、昭和三三年から三五年にかけて、妻とともに東京近郊のベッドタウンに暮らし、そこから都心の会社へ通う、「サラリーマン」とその家族たちの生活と意識を、つぶさに観察した。

その結果は『日本の新中間階級――サラリーマンとその家族』(昭和三八年)として出版されたが、これは高度経済成長前夜の、「大企業体や官庁のホワイトカラー勤務者」たちの、金銭感覚、家庭内の人間関係、忠誠心や道徳観、職場観、育児と教育、などのスケッチになっている。

ヴォーゲルは、この中で、彼ら「サラリーマン」と呼ばれる「新中間階級」が、「中小企業主や地主」といった「旧中間階級」と画然と異なった意識の持ち主であることを明らかにしている。

おもに地方出身の上京者からなる、この「新中間階級」たちは、故郷にも、現在住む地域社会にも、最小限のアイデンティティしか持たず、忠誠心は、もっぱら「会社」と「家庭」に向けられている。かと言って、「会社」は彼らに高い給料を支払ってはいないが、日本の社会保障制度の後れや、銀行が個人への融資を渋ること、親族や友人に金銭的援助を求めるよりも、犠牲を耐え忍ぶ気質が、彼らを、国家よりもはるかに生活を保障してくれる「会社」へと依存させる、とヴォーゲルは言う。

その結果、「会社」人間である「サラリーマン」たちには横並びの連帯感が生まれ、社章を身につけ、毎日決まった電車で出勤するようになる。「サラリーマン」もその妻子も、心を許してつき合えるのは、同僚とその妻子だけで、家族旅行にも「会社」指定の旅館を利用する。

さらに、彼らは、彼らの子弟を、自分たちと同様の「サラリーマン」にするため、進学を就職の道具と見なして、「入試地獄」を生み出している。

そんな、ヴォーゲルの見た「サラリーマン」たちは、まだ、庭つきの一戸建てで、質素に暮らしていて、「たいていの家では、今でも一つか二つのガスコンロと、数日ごとに氷を入れなければならない木製の冷蔵庫」(佐々木徹郎訳)を持つだけだった。

やがて、ここから、東宝映画の小林桂樹や加東大介たちのような「モーレツ社員」が"出撃"し、『ジャパン・アズ・ナンバーワン』の繁栄を築くことになる。

往きて還らぬ

▲6月11日　長谷川伸(79)
劇作家、小説家。小学校を2年で退学、独学で作家になった。股旅ものの第一人者で代表作に『沓掛時次郎』『一本刀土俵入』『瞼の母』など。

▲5月6日　久保田万太郎(73)
小説家、劇作家。生地・浅草を愛し、土地の人情風俗を伝統的な江戸言葉で表現した。写真は芥川龍之介と。

▲1月27日　吉田秀雄(59)
元電通社長。戦後、電通を世界一の広告代理店に育てあげた功労者で、"広告の鬼"と呼ばれた。

▲10月11日　ジャン・コクトー(74)
フランスの詩人、小説家、劇作家。小説『恐るべき子供たち』など。自宅でピアフの死を聞き、心臓麻痺で急死。

▲8月31日　ジョルジュ・ブラック(81)
フランスの画家。ピカソと親交を結びキュビストとして活躍。装飾的画風と渋い色彩で、独自の世界を作った。

共同通信社
▲5月18日　モルガン・雪(81)
祇園の芸妓で、米財閥のジョージ・D・モルガンに見そめられ、結婚。晩年は京都でカトリックの信仰に生きた。

▲3月7日　第12代酒井田柿右衛門(84)
陶芸家。人間国宝。江戸時代からとだえていた濁手という素地の技法を再現した。

▲10月25日　渋沢敬三(67)
明治の元勲・渋沢栄一の孫。日銀総裁、蔵相、国際電電社長を歴任。民俗学の後援者でもあった。

共同通信社
▲10月11日　エディット・ピアフ(47)
シャンソン歌手。ヒット曲は「愛の賛歌」「ばら色の人生」など。鍛えあげた歌声で魅了したが、晩年は麻薬中毒に。

▲5月24日　田崎勇三(64)
内科医。癌研究の大御所で、空襲で焼失した癌研を、戦後京橋に復興させた。みずからも歯齦癌で死亡。

東宝提供
◀12月12日　小津安二郎(60)
映画監督。小市民の家族像を描く名手として世界に知られる。代表作に「麦秋」「東京物語」「早春」など。

▲4月14日　野村胡堂(80)
小説家、音楽評論家。別名、あらえびす。代表作の『銭形平次捕物控』は昭和6年から32年まで続き、合計383篇。

ミニ事典 1963年のキーワード

部落問題研究全国集会
被差別部落に関する研究発表と学術交流を目的とした集会。部落問題研究所の主催で、六月一～二日、同志社大学で第一回集会が開かれ、研究者五六〇人が参加。部落問題の歴史と現状について討議し、特に被差別部落住民の異民族起源論に対して、厳しい批判が展開された。

小さな親切運動
東大学長の茅誠司の提唱で始まった誰もができる思いやり、親切を多くの人々が実践することによって人間性の回復、連帯感を求めていこうとする運動。六月一三日に東京の弘道会ビル内に本部が置かれた。九月には政府が「官公庁の親切運動」展開を打ち出し、池田首相も所信表明演説で運動の育成を表明した。

共同通信社

▲茅誠司（写真中央）の提唱で、「小さな親切運動」が発足した。

観光基本法
観光に関する基本政策を定めた法律。六月二〇日公布、施行。東京オリンピックを翌年に控えて、外国人観光客の来日をうながし、観光施設の整備、観光資源の保護育成などをはかった。そのため、観光政策審議会を設置、また、国際親善の増進や国際収支の改善も目的とした。

海運再建二法
海運不況を打開するため、業界各社の大規模な再編成を進めて、過当競争の防止をはかる海運業再建整備臨時措置法と、利子補給措置の強化を定めた外航船舶建造融資利子補給法等改正の二法が、七月一日に公布された。これにより、大手海運業界は日本郵船、大阪商船三井船舶など六社に統合された。

核家族
一組の夫婦とその未婚の子どもたちからなる家族。祖父母や親族と同居する複合家族に対して使われる。日本では高度経済成長とともに核家族化が進み、全国平均の一世帯当たり人員は、昭和三〇年に約五人だったが、三五年には四・五人、四〇年には四人と急減。核家族化は家族観の旧弊を脱する反面、伝統の断絶からくる新しい問題を生んだ。

老人福祉法
老人福祉の理念を明らかにし、それを具体化するのに必要な措置を講じた法律。七月一一日公布。老齢人口の増大と私的扶養の減退による老後の不安定化に対処するために制定された。具体的措置として老人の無料健康診断、老人福祉施設の新設、国民の祝日として老人の日（敬老の日）を設置することなどがあげられた。

中小企業基本法
中小企業の進むべき道と、中小企業政策の基本を示した法律。七月二〇日公布、施行。中小企業間の格差の増大や存立基盤の変化が激しいために制定された。通産省に中小企業政策審議会を設置、金融、税制、制度面での必要な措置をとり、設備の近代化や経営の合理化をめざした。

タス通信社／共同通信社

▲ウ・タント国連事務総長やフルシチョフ首相らが立ちあい、部分的核実験停止条約を調印。

部分的核実験停止条約
正式には大気圏内、宇宙空間および水中における核兵器実験を禁止する条約。八月五日、モスクワで核保有国のアメリカ、ソ連、イギリス三国が調印。後に日本をはじめ世界各国がこの条約に参加したが（一九九五年に一一五ヵ国）、フランスと中国は不参加だった。また、地下核実験が禁止されなかったため、核開発に抜け道を残すことになった。

日本原子力船開発事業団
海洋観測用の原子力船を開発するために組織された特殊法人。八月一七日に設立、理事長・石川一郎。国産加圧水型軽水炉を搭載した日本初の原子力船「むつ」を開発、昭和四六年度の運航を目標としたが、四九年九月に行った実験航海で放射能漏れ事故を起こしたため、実用化されなかった。事業団も六〇年三月に日本原子力研究所に吸収された。

▲原子力産業育成に力を注いだ石川一郎。

ATS
自動列車停止装置の略。国鉄がより高い安全性を確保するために九月一日、主要幹線、国電で使用開始。信号機が停止を示している時には、運転手の意思にかかわらず列車を停止させることができる。昭和四一年四月には国鉄全線に整備、新幹線では速度制御ができるATC（自動列車制御装置）が開発、装備された。

悪書追放運動
青少年に有害な不良雑誌を書店の店頭から追放しようとする運動。一〇月二日、甲府書籍雑誌商組合が東販など大手取次四社に、有害な不良雑誌の発送を中止するように申し入れたことをきっかけに、運動が全国的に広がった。一一月一日には売上高で全国の九〇パーセントを占める日本出版物小売業組合全国連合会が、不良出版物と指定した雑誌三〇種の店頭販売を拒否した。

放送番組懇談会
俗悪テレビ番組の自主規制策を審議する会議。俗悪番組が青少年の非行化に影響を与えているとの批判にこたえて、古池郵政相が、NHK・民放の番組審議会委員ら一一人を招き、一〇月四日、第一回会議を開催。一〇月一六日には総理府も第一回「マスコミと青少年に関する懇談会放送部会」を開いた。

スワップ協定
二ヵ国の中央銀行が自国通貨を預け合うことを取り決めた協定。日本はIMF八条国移行を控えた一〇月二九日、日本銀行がニューヨーク連邦準備銀行と協定を結んだ。為替相場安定のための介入資金確保などが目的で、アメリカは前年すでにドル防衛策の一環として、ヨーロッパとの協定網を拡大していた。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1963

CONTENTS

●編集
講談社総合編集局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室＋渡邉裕一
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 ㈲エービーシープレス ㈱カマル社 シド・プロ ㈲マックス ㈲マライカ 鍵和田良輔 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 結城順一 吉田忠正

●写真協力
柏木由紀子 桑原史成 沢田教一 塩田武史 W・ユージン・スミス 高森和明 田沼武能 土門拳 野上透 浜口タカシ 平野美津子 マルコム・ブラウン 松本徳彦 朝日新聞社 沖縄タイムス 共同通信社 月刊オートバイ COR BIS・BETTMANN TIME・LIFE タス通信社 中国新聞社 PPS Black・Star 毎日新聞社 読売新聞社 WWP 黒澤プロ 神戸港振興協会 スズキ 東映 東宝 土門拳記念館 にっかつ 日本コロムビア 本田技研工業 モリダイラ楽器

「日録20世紀」20号までの刊行スケジュール

（毎週火曜日発売。変更になる場合もあります。なお、刊行日は首都圏基準です）

創刊号（2月18日号）1959［昭和34年］
好評発売中●世紀のご成婚！●巨大「伊勢湾台風」の猛威●マイカー元年！わが家に車がやって来た●フルシチョフ首相の“歴史的”訪米

第2号（2月25日号）1964［昭和39年］
好評発売中●東京オリンピック開催！●新潟地震と産業都市のもろさ●新幹線「ひかり」、4時間で走る●米キング牧師にノーベル平和賞

第3号（3月4日号）1945［昭和20年］
好評発売中●マッカーサーの2000日●広島と長崎に原爆！死者は31万人●8月15日の「天皇と国民」●ポツダム宣言と米ソ冷戦の始まり

第4号（3月11日号）1970［昭和45年］
好評発売中●三島由紀夫、割腹自殺！●EXPO '70で日本も大国の仲間入り●「よど号」ハイジャック●ウーマン・リブ、全米で10万人デモ

第5号（3月18日号）1963［昭和38年］
好評発売中●ケネディ暗殺事件！●「水俣病とチッソ」に決定的証拠●ホンダ車などオートバイ世界一に●えん罪晴れた“昭和の巌窟王”

次 号（3月25日号）1958［昭和33年］
3月11日発売●巨人軍・長嶋茂雄デビュー！●若者にロカビリー旋風●流通革命！スーパー・ダイエー1号店●ド・ゴール、仏大統領に就任

第7号（4月1日号）1972［昭和47年］3月18日発売●連合赤軍「浅間山荘」事件●日中国交回復の“乾杯！”●27年ぶりに沖縄が日本に還る●テルアビブとミュンヘン五輪の流血

第8号（4月8日号）1980［昭和55年］3月25日発売●山口百恵が引退！●ついに日本車の生産台数が世界一に●衝撃の金属バット殺人事件と家庭内暴力●韓国光州事件の真相

第9号（4月15日号）1976［昭和51年］
4月1日発売●角栄逮捕！政界に激震●山下家に五つ子ちゃん誕生●サービス革命！「クロネコ」走る●毛・周死去、文革がようやく終わる

第10号（4月22日号）1989［平成元年］
4月8日発売●昭和天皇ご大喪！●吉野ケ里発掘と邪馬台国論争●消費税3パーセント、混乱と不安のスタート●中国で天安門広場の惨劇

▶第11号（4月29日号）1960［昭和35年］4月15日発売
“安保”で国内騒然●所得倍増計画発表●清張ブーム●アフリカ独立国続出
▶第12号（5月6日号）1961［昭和36年］4月22日発売
ケネディ、大統領就任●「金の卵」大モテ●アンネ発売●朴正煕、権力の座に
▶第13号（5月13・20日号）1962［昭和37年］4月28日発売
「無責任男」大人気●東京が1000万都市に●YS11が翔ぶ●キューバ危機
▶第14号（5月27日号）1965［昭和40年］5月13日発売
「11PM」放映開始●日韓基本条約可決●ジャルパックに人気●北爆開始
▶第15号（6月3日号）1966［昭和41年］5月20日発売
ビートルズ来日●航空機事故が相次ぐ●巨大タンカー登場●中国で文革

▶第16号（6月10日号）1967［昭和42年］5月27日発売
ツイッギー来日●美濃部都政スタート●公害列島ニッポン●初の心臓移植
▶第17号（6月17日号）1968［昭和43年］6月3日発売
日大紛争と全共闘●若者と「あしたのジョー」●3億円事件●プラハの春
▶第18号（6月24日号）1969［昭和44年］6月10日発売
日本、GNP世界2位●安田講堂攻防戦●「男はつらいよ」●アポロ、月に
▶第19号（7月1日号）1941［昭和16年］6月17日発売
真珠湾攻撃●ゾルゲ逮捕●李香蘭、日劇で歌謡ショー●独ソ戦が始まる
▶第20号（7月8日号）1942［昭和17年］6月24日発売
ミッドウェー海戦●朝鮮人ら強制連行●在米日系人の運命●ユダヤ人虐殺

●創刊号は、特価290円。第2号から第8号は、定価550円、第9号（4月発売号）からは定価560円です。
●バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく、送料200円のご負担となります。なお、代金と送料は先にお送りください。申込先　講談社読者サービス係　電話03-5395-3676
（1997年2月現在）

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1963

●ケネディ大統領暗殺!

3月18日号

第1巻第5号 通巻5号
平成9年3月18日発行(毎週火曜日発行)

編集人 近藤達士 発行所 株式会社 講談社
発行人 丸本進

郵便番号112-01 東京都文京区音羽2-12-21
(編集)03-3944-1295 (販売)03-5395-3604

定価550円(本体534円)

雑誌 23703-3/18 T1023703030555
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 本村製本株式会社